

令和7年度第1回埼玉県バーチャルユースセンター

運営検討会議 次第

日時 令和7年6月12日（木）
15：00～17：00
会場 オンライン

1 開会

2 挨拶

3 議事

- （1）埼玉県バーチャルユースセンター試行状況報告について
- （2）埼玉県バーチャルユースセンター今後の方向性（案）について

4 閉会

◆埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議委員名簿

No.	氏 名	備 考
1	青山 鉄兵	文教大学・准教授
2	さいたまん吉	埼玉県広報アンバサダー
3	篠谷 瞳	さいたま市総合教育相談室
4	ブローハン 聡	一般社団法人コンパスナビ・代表理事
5	堀田 香織	埼玉大学・名誉教授
6	鳥海 洋平	大日本印刷株式会社
7	諏訪 峻之	上尾市こども家庭保健課
8	利根 好子	小川町健康福祉課

埼玉県バーチャルユースセンター 試行状況報告

2025.06.12

認定NPO法人さいたまユースサポートネット



10月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
10月 1日(火) 10:00～14:00	VYCを探検しよう！(13:00～13:45)	0名
10月 3日(木) 10:00～14:00	VYCを探検しよう<操作方法デモ>(10:00～10:45)	5名(男:2名、女:3名)
10月 8日(火) 10:00～14:00	VYCを探検しよう！(10:00～10:45) トークカフェ(13:00～13:45)	7名(男:5名、女:2名)
10月11日(金) 13:00～17:00	VYCを探検しよう！<小学生デモ>(16:00～17:00)	15名(男:7名、女:8名)
10月15日(火) 10:00～14:00	トークカフェ(13:00～13:50)	2名(男:2名、女:0名)
10月16日(水) 10:00～11:00	VYCを探検しよう！<狭山市教委操作方法デモ> (10:00～11:00)	6名(男:2名、女:4名)
10月17日(木) 10:00～14:00	哲学カフェ(13:30～14:30)	9名(男:4名、女:5名)
10月22日(火) 12:00～16:00	バーチャル県民SHOW(14:00～15:30)	2名(男:2名、女:0名)
10月25日(金) 13:00～17:00	宝探し(小学生コラボ会)(15:00～17:00)	43名
10月29日(火) 10:00～14:00	トークカフェ(13:00～13:45)	10名(男:4名、女:6名)

10月利用者(述べ人数)	10月登録者数
99名	21名

11月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
11月 1日(金) 13:00~17:00	LGBTQ基礎知識セミナー(14:00-15:00)	6名(男:4名、女:2名)
11月 5日(火) 10:00~14:00	健康教室(10:30-12:00)	6名(男:3名、女:3名)
11月 6日(水) 13:30~14:30	学びの場デモ(13:30~14:30)	4名(男:2名、女:2名)
11月 8日(金) 13:00~17:00	表現コミュニケーションWS(10:30-12:00)	1名(男:0名、女:1名)
11月12日(火) 10:00~14:00	表現コミュニケーションWS(13:00-13:30)	2名(男:1名、女:1名)
11月15日(金) 13:00~17:00	県立ふじみ野高校デモ(13:30-13:30)	16名(男:10名、女6名)
11月19日(火) 10:00~14:00	こころの話・からだの話(11:00-11:30)	6名(男:5名、女:1名)
11月22日(金) 13:00~17:00	表現&哲学対話のmix Ver.(13:00-14:00)	0名(男:0名、女:0名)
11月24日(日) 13:00~17:00	★こどもの居場所フェア埼玉(12:00-16:00)	50名
11月26日(火) 10:00~14:00	表現&哲学対話のmix Ver.(13:00-14:00)	5名(男:3名、女:2名)
11月29日(火) 13:00~17:00	推し本紹介しよう！(15:00-16:00)	6名(男:3名、女:3名)

11月利用者(述べ人数)	11月登録者数
102名	16名

12月活動実績 (1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
12月 3日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:00-14:00)	①②0名(男:0名、女:0名)
12月 6日(金) 9:00~17:00	①加須市教育支援センターデモ(10:05-11:05) ②プログラミング教室「スクラッチやろう」(13:30-14:30) ※Zoom ③トークカフェ(16:00-17:00)	①7名(男:1名、女:6名) ②1名(男:1名、女:0名) ③1名(男:1名、女:0名)
12月10日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:30-14:00)	①②0名(男:0名、女:0名)
12月13日(金) 14:00~18:00	①見沼の生き物を知ろう！(14:00-15:00) ②トークカフェ(16:00-17:00)	①3名(男:2名、女:1名) ②1名(男:1名、女:0名)
12月17日(火) 10:00~14:00	①学習プログラム(10:30-11:30) ②ポレポレひろば(13:00-14:00)	①0名 ②15名
12月19日(木) 17:00~18:00	コンパスナビデモ(17:00~18:00)	5名(男:2名、女:3名)
12月20日(火) 11:00~15:00	★つながるSAITAMAフェスタ ①トークカフェ(11:00-11:45) ②トークカフェ特別講演(13:15-14:00) ③本のおしゃべり(14:00-15:00)	①2名 ②12名 ③16名

12月活動実績（2）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
12月26日(木) 11:00～13:00	煮ぼうとうオフ会inさいたま市若者自立支援ルーム・桜木(11:00-13:00)	7名(男:5名、女:2名)
12月27日(金) 14:00～17:00	①見沼の植物を知ろう！(14:00-15:00) ②トークカフェ(16:00-17:00)	①1名 ②0名

12月利用者(述べ人数)	12月登録者数
71名	27名

1月活動実績 (1)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
1月 7日(火) 18:30~20:30	新春トークカフェ(19:00-20:00)	1名
1月 8日(水) 14:00~16:00	発酵の話し(14:30-15:30)	0名
1月 9日(木) 16:00~18:00	暦のハナシ(16:30-17:30)	0名
1月10日(金) 15:00~17:00	ポレポレひろば(15:30-16:30)	0名
1月15日(水) 16:00~18:00	お仕事トーク「学校の先生」(16:30-17:30)	0名
1月16日(木) ①10:00~10:30 ②16:00~18:00	①本庄市教育支援センターデモ(10:00-10:30) ②観るラジオ☆バーたま!(16:30-17:30)	①6名 ②1名
1月17日(金) 15:00~17:00	ポレポレひろば(15:30-16:30)	0名
1月21日(水) 13:00~15:00	プログラミング教室(13:30-14:30)	1名
1月22日(木) 14:00~16:00	①NPOクラブしっきーズデモ(14:30-15:30) ②見沼の自然を知ろう(14:30-15:30)	①5名 ②1名
1月23日(木) 12:00~15:30	①煮ぼうとうオフ会in上尾市子ども若者自立支援 ルームここから(12:00-13:30) ②ポレポレひろば(14:00-15:00)	①9名 ②8名
1月24日(金) 15:00~17:00	学びの時間(15:30-16:30)	0名

1月活動実績（2）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
1月25日(土) 15:30～17:30	本のおしゃべり(16:00-17:00)	2名
1月28日(火) 14:30～16:30	からだの話(15:00-16:00)	4名
1月29日(水) 16:00～18:00	ポレポレひろば(16:30-17:30)	0名
1月30日(木) 16:00～18:00	学びの時間(16:30-17:30)	0名
1月31日(金) 15:00～17:00	推しトーク「音楽」(15:30-16:30)	3名

1月利用者(述べ人数)	1月登録者数
41名	5名

2月活動実績（1）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
2月 3日(月) 14:00～16:00	お仕事トーク「ネイリスト」(14:30-15:30)	0名
2月 4日(火) 13:00～15:00	暦のハナシ(13:30-14:30)	0名
2月 5日(水) 14:30～16:30	観るラジオ☆バーたま！(15:00-16:00)	3名
2月 7日(金) 14:00～16:00	ポレポレひろば(14:30-15:30)	1名
2月 8日(土) 14:00～16:00	VYC向上委員会(14:30-15:30)	3名
2月12日(水) 13:00～15:00	ゆるっと自習室(13:30-14:30)	0名
2月13日(木) 13:00～15:00	推しトーク「好きな漫画」(13:30-14:30)	0名
2月14日(金) 14:00～16:00	ポレポレひろば「おやつ」(14:30-15:30)	3名
2月18日(火) 13:00～15:00	プログラミング教室(13:30-14:30)	0名
2月19日(水) 10:00～12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
2月20日(木) 13:30～15:30	ポレポレひろば「コンビニ」(14:00-15:00)	6名
2月21日(金) ①10:00～12:00 ②18:30～20:30	①子ども地域ネットワーク所沢デモ(10:00-12:00) ②ゆるっとトーク(19:00-20:00)	①7名 ②0名

2月活動実績（2）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
2月25日(火) 13:00～15:00	VYCオープンデー(13:30-14:30)	3名
2月26日(水) 14:00～16:00	ポレポレひろば「インドア」(14:30-15:00)	0名
2月27日(木) 13:00～15:00	推しトーク「マイクラフト」(13:30-14:30)	1名
2月28日(金) 14:30～16:30	みちねこのブックトーク(15:00-16:00)	3名

2月利用者(述べ人数)	2月登録者数
30名	23名

3月活動実績（1）

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
3月 4日(火) 10:00～12:00	暦のハナシ(10:30-11:30)	0名
3月 5日(水) 10:00～12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
3月 6日(木) 13:30～15:30	ポレポレひろば(14:00-14:30)	0名
3月 7日(金) 14:00～16:00	ゆるっとトーク(14:30-15:30)	0名
3月11日(火) 14:00～16:00	推しトーク「好きなキャラクター」(14:30-15:30)	0名
3月12日(水) 10:00～12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
3月13日(木) 13:30～15:30	ポレポレひろば(14:00-14:30)	0名
3月14日(金) 14:00～16:00	推しトーク「好きなテーマパーク」(14:30-15:30)	1名
3月18日(火) 13:30～15:30	観るラジオ☆バーたま！(14:00-15:00)	3名
3月19日(水) 10:00～12:00	ゆるっと自習室 (10:30-11:30)	0名
3月21日(金) 14:30～16:30	若者の声(15:00-16:00)	1名

3月活動実績（2）

VYC
オープン
DAY

※春休み企画

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
3月26日(水) 14:00～16:00	バーチャル埼玉ツアー(14:30-15:30)	6名
3月27日(木) 10:00～12:00	バーチャル埼玉ツアー(10:30-11:30)	4名
3月28日(金) 10:00～12:00	ゆるっとトーク「ペット」(10:30-11:30)	0名
3月29日(土) 19:00～21:00	バーチャル埼玉ツアー(19:30-20:30)	1名
3月30日(日) 19:00～21:00	推しトーク「ゲーム」(19:30-20:30)	3名

3月利用者(述べ人数)	3月登録者数
19名	16名

4月活動実績(1)

VYC
オープン
DAY
※春休み企画

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
4月 2日(水) 10:00~12:00	バーチャル埼玉ツアー(10:30-11:30)	2名
4月 3日(木) 10:00~12:00	観るラジオ☆バーたま!(10:30-11:30)	2名
4月 4日(金) 15:30~17:30	バーチャル埼玉ツアー(16:00-17:00)	1名
4月 5日(土) 15:30~17:30	ゆるっとトーク「マンガ」(16:00-17:00)	0名
4月 8日(火) 10:00~12:00	暦のハナシ(10:30-11:30)	1名
4月 9日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
4月10日(木) 16:00~18:00	はじめてのVYC(16:30-17:30)	0名
4月11日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名
4月15日(火) 10:00~12:00	推しトーク「好きなキャラクター」(10:30-11:30)	0名
4月16日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
4月17日(木) 16:00~18:00	はじめてのVYC(16:30-17:30)	0名
4月18日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名

4月活動実績(2)

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
4月22日(火) 10:00~12:00	推しトーク「ゲーム」(10:30-11:30)	0名
4月23日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	0名
4月24日(木) 16:00~18:00	はじめてのVYC(16:30-17:30)	1名
4月25日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名
4月26日(土) 19:00~21:00	ゆるっとトーク「GWなにをするん？」(19:30-20:30)	1名
4月28日(月) 12:30~14:30	お仕事トーク(13:00-14:00)	0名
4月30日(水) 10:00~12:00	ゆるっと自習室(10:30-11:30)	1名

4月利用者(述べ人数)	4月登録者数
9名	10名

5月活動実績

開室日時	実施プログラム(実施時間)	利用者数
5月 1日(木) 15:00~18:00	①スタッフラジオ(15:30-16:30) ②ゆるっとトーク(17:00-17:30)	①0名 ②0名
OPEN 5月 3日(土) 19:00~21:00	テーマトーク「コンビニで思わず買っちゃうもの」 (19:30-20:30)	0名
5月 7日(水) 9:30~12:30	①暦のハナシ(10:00-11:00) ②ゆるっとトーク(11:30-12:00)	①0名 ②0名
5月 8日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
5月 9日(金) 11:00~13:00	ランチトーク(11:30-12:30)	0名
OPEN 5月13日(火) 9:30~12:30	①おためしVYC(10:00-11:00) ②スタッフラジオ(11:30-12:00)	①3名 ②3名
5月15日(木) 15:00~18:00	①ゆるっと自習室(15:30-16:30) ②まったりChill time(17:00-17:30)	①0名 ②0名
5月16日(金) 17:00~19:00	わせだこども食堂デモ(17:00-19:00)	10名

※ OPEN :オープンDAY実施日(未登録でも参加可能)

開室日時		実施プログラム(実施時間)	利用者数
OPEN	5月18日(日) 19:00～21:00	イバショビルド(19:30-20:30)	1名
	5月19日(月) 14:00～15:00	デモクラティックスクールさいたまあみゅーずデモ(14:00-15:00)	4名
	5月20日(火) 9:30～12:30	①お仕事トーク(10:00-11:00) ②ランチトーク(11:30-12:00)	①0名 ②0名
	5月21日(水) 16:00～18:00	テーマトーク「わたしの趣味」(16:30-17:30)	5名
	5月22日(木) 13:30～18:00	①バーチャル埼玉ツアーin上尾市子ども若者自立支援ルームここから(13:30-15:00) ②おためしVYC(15:30-16:30) ③まったりChill time(17:00-17:30)	①3名 ②3名 ③1名
	5月27日(火) 10:00～13:00	①推しトーク「K-POP」(10:30-11:30) ②まったりChill time(12:00-12:30)	①0名 ②0名
	5月28日(水) 16:00～17:00	県立和光高校デモ(16:00-17:00)	5名
OPEN	5月29日(木) 15:00～18:00	①観るラジオ☆バーたま！(15:30-16:30) ②ゆるっとトーク(17:00-17:30)	①2名 ②2名
	5月31日(土) 19:00～21:00	テーマトーク「好きなお夜食」(19:30-20:30)	3名
5月利用者(述べ人数)			5月登録者数
45名			10名

前回からの変更点

◆プログラムに関して

- 日時を固定 : 火曜(9:30~12:30)、木曜(15:00~18:00)
- 夜の時間帯(19:00~21:00)、土曜日・日曜日の実施
- ゲスト講師による進行からスタッフ進行のプログラムへ
※アンケート反映(共通のテーマで話したい等)、プログラムの時間を通じて運営スタッフと関係性を構築
- オープンDAYの定期開催 : 初めて参加する方を対象としたプログラムを実施
- 意見発信プロジェクト「イバショビルド」
- TEAMSの活用

プログラム「イバショビルド」

概要

- こども・若者の意見発信（例）県への政策提言等
- 対象：高校生以上
- 5/18(日)初回実施
：「自分たちに必要な居場所とは？」をテーマに
意見交流
- TEAMSを活用
：過去の話し合いの内容も確認し、深めるツール
- 参加者特典を検討



その他、活動実績

広報活動 実績

- デモ活動(子ども地域ネットワーク所沢、わせだみさとこども食堂、デモクラティックスクール
さいたま あみゆうず、県立和光高校)
- 不登校傾向にある児童・生徒へのアプローチ(さいたま市内教育支援センターを訪問・チラシ配布、
さいたま市学習支援委託事業の登録者の中で不登校傾向にある児童・生徒に対して事業紹介)
- つながりのある中学・高校、地域団体等にチラシ配布(約6000部)
- SNS：LINEにて最新情報を配信。Instagram開設・更新(2週間に1回程度)。
埼玉県広報アンバサダーにInstagramにて事業周知。
- LP更新
- Web広告掲載

< vyc_saitama

...



埼玉県バーチャルユースセンター

10 投稿
27 フォロワー
6 フォロー中

埼玉県のメタバース空間「バーチャル埼玉」内にできた新しい居場所。

- 📍 埼玉県内のこども・若者が対象
- 🔒 事前登録制

リアルで会うのは少し苦手という人でも大丈夫。バーチャル空間で、あなたらしい一歩を踏み出してみませんか？
【埼玉県の委託により認定NPO法人さいたまユースサポートネットが運営しています】

🔗 youtu.be/pUYjFaHPq54?si=R...、他1件



saita_mankichi

🎵 table_1・ダラダラもふもふ

...



saita_mankichi @saita_mankichi 🏡 色んな居場所があってそれでいい

バーチャル埼玉の中に新しい居場所

👤 バーチャルユースセンター 🎵
が出来たよ♪

県内に住むこども・若者なら誰でも利用可能🉑
アバターを作ってみんなで交流したり相談や体験も出来たり☆

豊富なプログラムも用意されているんだけど
実際に参加させていただいたよ🎵

私が参加したのは【趣味】について語るプログラム
匿名性や安全性も守られており
ケラケラ笑いながら楽しく参加させていただきました🌟

【リアル】が苦手な方でも大丈夫
一度気軽に使ってみませんか🥰

vyc_saitama #埼玉県バーチャルユースセンター
@virtual_saitama #バーチャル埼玉
@saitama_pref_official #埼玉県広報アンバサダー
#埼玉 #saitama #埼玉ママ

5月 イベント カレンダー

VYCオープンDAYは、
事前登録なしで
参加できます！



1	木	①スタッフラジオ ②ゆるっとトーク	①15:30~16:30 ②17:00~17:30
2	金		
3	土	テーマトーク 「コンビニで思わず買っちゃうもの」	19:30~20:30
4	日		
5	月		
6	火		
7	水	①暦のハナシ ②ゆるっとトーク	①10:00~11:00 ②11:30~12:00
8	木	①ゆるっと自習室 ②まったりChili time	①15:30~16:30 ②17:00~17:30
9	金	ランチトーク	11:30~12:30
10	土		
11	日		
12	月		
13	火	①おためしVYC ②スタッフラジオ	①10:00~11:00 ②11:30~12:00
14	水		
15	木	①ゆるっと自習室 ②まったりChili time	①15:30~16:30 ②17:00~17:30
16	金		
17	土		
18	日	イバシビルド	19:30~20:30
19	月		
20	火	①お仕事トーク(多国籍人誌の巻) ②ランチトーク	①10:00~11:00 ②11:30~12:00
21	水	テーマトーク 「わたしの趣味」	14:30~17:30
22	木	①おためしVYC ②まったりChili time	①15:30~16:30 ②17:00~17:30
23	金		
24	土		
25	日		
26	月		
27	火	①推しトーク「KPOP」 ②まったりChili time	①10:30~11:30 ②12:00~12:30
28	水		
29	木	①観るラジオ☆バーたま！ ②ゆるっとトーク	①15:30~16:30 ②17:00~17:30
30	金		
31	土	テーマトーク 「好きなお食事」	19:30~20:30

OPEN がついている日は
VYCオープンDAY



Pick Up!

29 観るラジオ☆バーたま！
(木) 「こども選挙」を通して主権者教育を考える時間

おすすめ！

07 暦のハナシ
(水)
こどもの日って何？
月初に聴く暦トリビア

20 お仕事トーク
(月)
お仕事の定番「事務職」
人気の秘密を語ります

スタッフ☆ラジオ
スタッフの日常トーク
01日(木) 15:30~16:30
13日(火) 11:30~12:00

ゆるっと自習室
宿題やドリル
レポート作成...
持ち寄り勉強しよう！
08日(木)、15日(木)
15:30~16:30

おためしVYC
はじめて参加する方はコチラ
スタッフがVYCがどんな
ところかをご紹介します！
13日(火) 10:00~11:00
22日(木) 15:30~16:30

まったりChili time
ただそこにてリラックス
環境音楽に浸る時間
08日(木) 17:00~17:30
15日(木) 17:00~17:30
22日(木) 17:00~17:30
27日(火) 12:00~12:30



埼玉県バーチャルユースセンター (VYC)

Web広告掲載

YouTube広告掲載

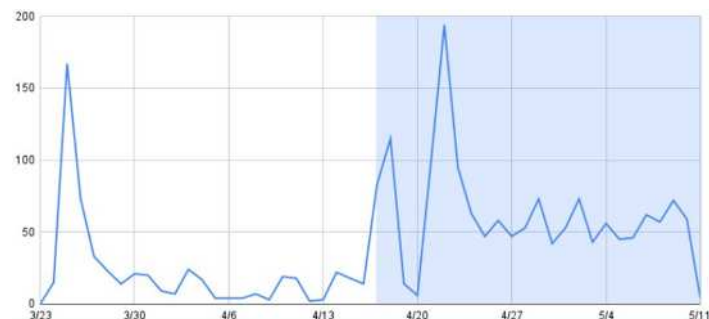
期間：令和7年4月17日(木)～5月11日(水)

対象：埼玉県内在住の子ども(6～17歳)を持つ人・教育機関・現役の大学生、
検索キーワード「不登校」「学校に行きたくない」「寂しい」「居場所」等
アプローチ強化層に関係するものを選定⁽¹⁾

影響：法人サイト⁽²⁾全体の中でも露出が増えたことで関心が高まった

※広告未掲載期間(3月23日～4月16日、25日間)と
広告掲載期間(4月17日～5月11日、25日間)を比較

- ・PV数:541→1558(約3倍)
- ・インターネットブラウザにて直接「バーチャルユースセンター」と打ち込み検索された



(1)対象設定の理由：保護者が子どもの居場所を探してVYCにつながる層が一定いることや、子ども・若者と直接つながっている支援者からの問合せもあることから、子ども・若者に関わる大人を対象とした。

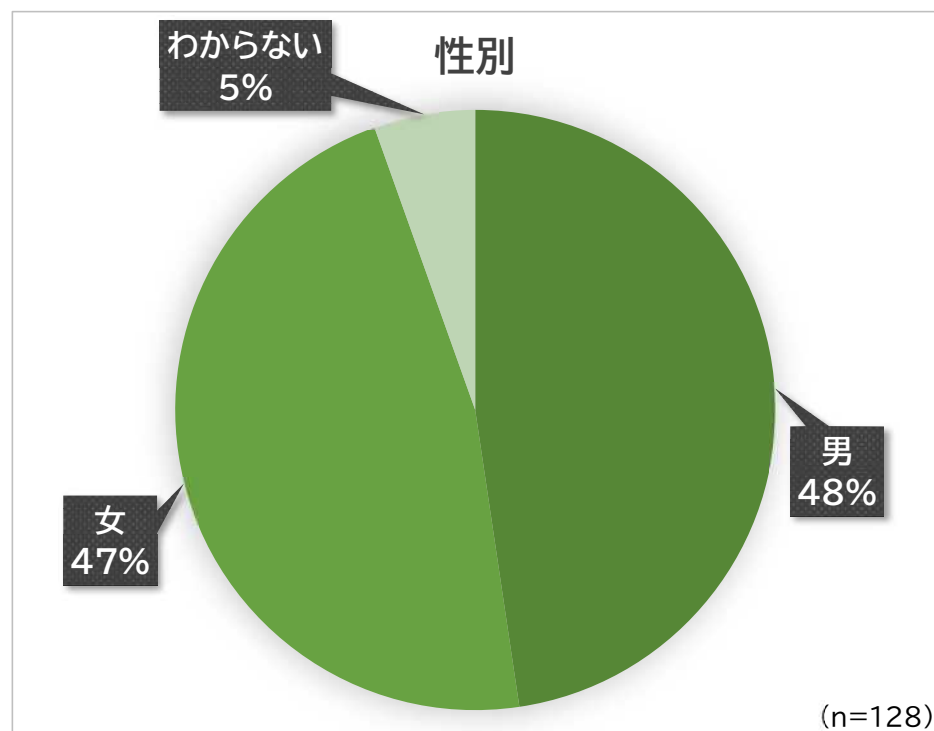
(2)認定NPO法人さいたまユースサポートネットのホームページ。

利用登録者数

	利用者(延べ人数)	登録者
10月	99名	21名
11月	102名	16名
12月	71名	27名
1月	41名	5名
2月	30名	23名
3月	19名	16名
4月	9名	10名
5月	45名	10名
利用者累計		登録者累計
416名(5/31時点)		128名(5/31時点)

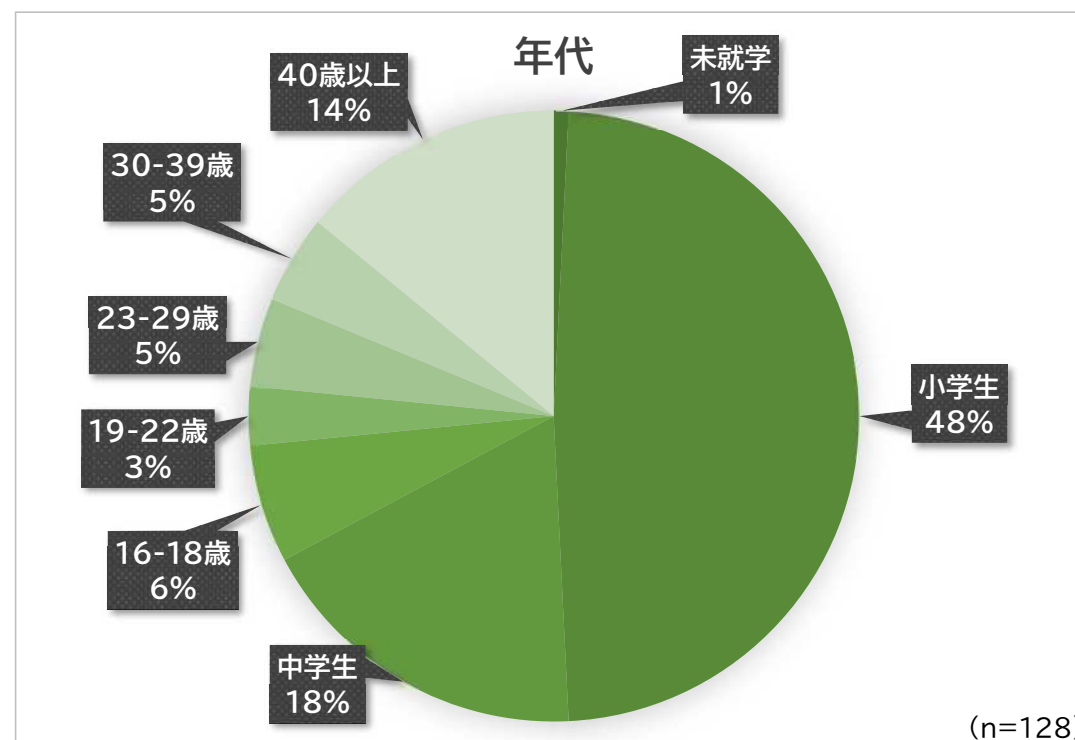
利用登録者の傾向

性別	男	61
	女	60
	わからない	7



利用登録者の傾向

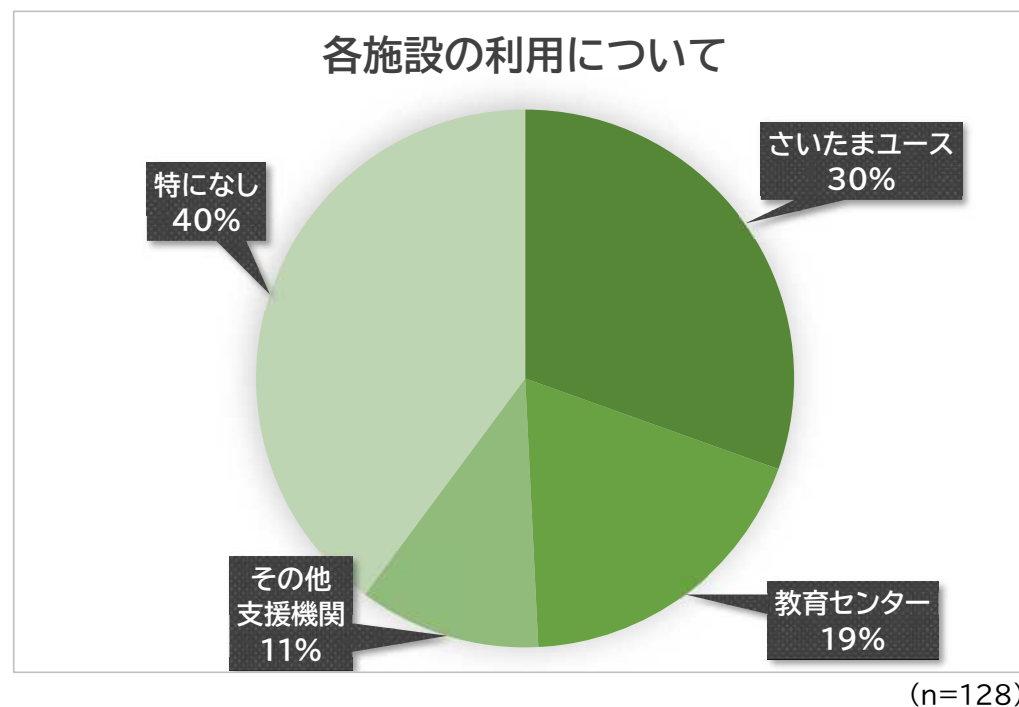
年代	未就学	1
	小学生	62
	中学生	23
	16-18歳	8
	19-22歳	4
	23-29歳	6
	30-39歳	6
	40歳以上	18



利用登録者の傾向

各施設	さいたまユース	39
	教育センター	24
	その他支援機関	14
	特になし	51

「特になし」は、イベントでVYCを知った方や公共施設や学童クラブでVYCの情報を得た方、県実施のアンケート等からの登録も含まれています。



参加者の声(10月)

感想	意見・要望など
・ 楽しい。 ・ 顔を出さなくていいのが良い。 ・ チャットでのやり取りは抵抗感が少ないと思う。 ・ 対面での交流のほうが好み。	・ 不登校の子ども(小5)の保護者より、「居場所のない時間にオンラインで参加できる場所があることがありがたい」。 ・ アバターを自由に作成できるようにしてほしい。 ・ (バーチャル埼玉内で)季節ごとのイベントがあると楽しい。 ・ 土日や夜の時間など、施設が開いていない時間に利用したい。 ・ ログ機能があると良い(誰がどの時間にいたかわかるように) ・ チャットに「いいね!」などのリアクションがあると良い。 ・ リアルタイムで文章を考えるのが苦手なので、テーマトーク以外で、ゆるっと気軽に雑談したい。

※アンケートは、デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加した小学生・10代～20代の若者に直接聞き取りとアンケート記入により収集。

- ・ さいたま市若者自立支援ルーム
- ・ 上尾市子ども若者自立支援ルームここから
- ・ 子ども第三の居場所あそぼつくすほりさき
- ・ 就労支援はたチカプログラム

参加者の声(11月～12月)

感想・興味を持ったきっかけ	意見・要望など
・ (デモに参加した小学生) 遠くから画面を見たら、よく知っているゲームに似てたから参加した。アドベンチャーエリアでみんなと一緒に遊んだのが楽しかった。(バーチャル埼玉の中で)また会う約束をしたので登録してみたい。 ・ (小学生の子どもと一緒にデモを体験した保護者) 自分の住んでいる自治体にもオンライン上の不登校支援センターはあるのだが、少し学校っぽいので子どもにはなじまない。もっとゆるやかな居場所みたいなものがないかと思い参加してみました。 ・ (30代) ひきこもり支援機関につながっているが、他の人と一緒に参加するリアルプログラムはまだ無理があるので、自分のペースで参加できそうなバーチャルユースセンターに興味を持った。	・ (プログラムに参加した小学生) 見るだけじゃなくて体験コーナーがほしい。蔵造りブースエリアでコバトンコインを集めるのは楽しかった。もっと面白いと知名度が上がると思う。 ・ (20代) 仮想空間上でオンライン配信できるのは画期的だと感じた。しかし配信画面の画質が悪いのが気になった。 ・ (20代) キャラクターで他者との差別化ができず、誰が誰なのか見分けが付きにくい。髪型や髪色、メガネ等のアクセサリや服などは変更できると個性が出せる。またアバターのリアクションや他のアバターの様子が分かりにくい。

※イベントでのデモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。

さいたま市若者自立支援ルーム／上尾市子ども若者自立支援ルームここから／子ども第三の居場所あそぼくすほりさき／就労支援はたチカプログラム

参加者の声(1月～2月)

感想・興味を持ったきっかけ	意見・要望など
・ (不登校の子どもをもつ保護者) 不登校をテーマにした報道でVYCを知り、登録につながる。アバターで他者と交流できるところに惹かれ、きっかけになればと思った。 ・ (不登校の子どもをもつ保護者) 教育支援センターでのデモで子どもが興味を持ったため登録。 ・ (デモに参加した小学生) みんなできて楽しかった。(バーチャル埼玉に)鉄道を走らせてほしい、運転してみたい。アウトドアエリアの自転車も自分で操作したい。自分が住んでいる市ができるとうれしい。	・ (プログラムに参加した小学生) 自分でプログラムを企画したい。好きなものを紹介したい。 ・ (プログラムに参加した30代若者) チャットのUI(ユーザーインターフェイス)を全体的に改良してほしい。フリック入力だけでもできるようにしてほしい。 ・ (デモに参加した20代若者) オンラインに居場所があればいいという訳ではない。会いたい人がそこにいるから(リアルの居場所に)行っている。 ・ (デモに参加した20代若者) すでに相談できる(リアルの)場所があるからバーチャルで相談しようとは思わない。顔が見えない人には、相談しない。安心感がないから。

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
クローバーハウス／本庄市教育支援センター／NPOクラブしっきず／さいたま市若者自立支援ルーム／上尾市子ども若者自立支援ルームこれから

参加者の声(3月～5月)

感想・興味を持ったきっかけ

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ (20代の若者)
県外のユースセンターを訪れたことをきっかけに、埼玉県でも同様の場所がないかとインターネットで検索したところ、VYCがヒットした。本当はリアルのユースセンターで体を動かしたい。・ (中学生の子どもの保護者)
県内の支援機関からVYCを紹介された。子どもに紹介する前に、まずはお試しで登録。・ (中学生の子どもの保護者)
県庁のLINEでVYCを知った。子どもが対面でのコミュニケーションが苦手なので、メタバースで交流の機会ができればと思い、登録。・ (デモに参加した小学生の子どもの保護者)
デモで実際にスタッフの顔を見ると安心感がある。 | <ul style="list-style-type: none">・ (プログラムに参加した高校生)
よく観ているVTuberの配信だとチャット欄が穏やかで温かい。VYCも同じように大人が見守り、否定されない安心感があった。・ (デモに参加した高校生)
なんかすごかった。・ (デモに参加した高校生)
離れている人と交流できるのがいいと思った。・ (デモに参加した高校生)
相談とかはメールとかがいいかな。対面だと相談しづらいし、なんか気まずい。 |
|--|---|

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
子ども地域ネットワーク所沢／みさとこども食堂／デモクラティックスクール さいたま あみゅーず／県立和光高校／上尾市子ども若者自立支援ルームここから

参加者の声(3月～5月)

意見・要望など

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none">• (デモに参加した小学生)
タイムトライアルで競って遊べるようになったらいいな。• (デモに参加した中学生)
シール交換が好きなので、リアル活動があれば参加したい。(アウトドアエリアの)アスレチックの種類をもっと増やしてほしい。• (バーチャル埼玉を体験した大学生)
拡張性がなくて残念。• (デモに参加した高校生)
普段プログラミングなどでメタバース上の街や建物、空間を造っているのに、バーチャル埼玉はなににもできないと感じる。例えば、一緒にワールドを作りながら話したりできたら楽しいかも。 | <ul style="list-style-type: none">• (プログラムに参加した高校生)
登録の際に、個人情報を入力することに抵抗があった。• (プログラムに参加した高校生)
意見交換をしたら、まずはリアルがあって、次点で顔出しアリのオンライン、その後にアバターでの交流ならあり得るかも。• (プログラムに参加した30代)
コミュニケーション空間としては物足りない。アドベンチャーエリアやアウトドアエリアでチャットができればいいのに。相談エリアでオープンチャットをするとトークが流れてしまう。グループチャットができればいいのに。相談エリアに入るのにエントランスを経由するのが面倒だった。 |
|--|--|

※デモ及びプログラムを実施した下記施設にて、参加者や問合せがあった方より直接聞き取りにより収集。
子ども地域ネットワーク所沢／みさとこども食堂／デモクラティックスクール さいたま あみゅーず／県立和光高校／上尾市子ども若者自立支援ルームここから

参加者の声を受けて(10月)

- 基本は『利用登録⇒参加』という流れではあるが、居場所を必要とする子どもや若者は安心できる場と感じられて初めて参加・活動することができるため、『お試し参加⇒利用登録』という流れも必要だと考える。
- VYC開始段階ということもあり、利用者からの感想としてアプリの仕様に関する要望事項も多かった。今後プログラムに関する要望や、やりたいことなどをアンケートやプログラム後の交流時間を活用し聞き取っていきたい。
- さいたまユースの各事業プログラムに参加している子ども・若者や、ご協力いただいた狭山市教委の適応指導教室「茶レンジルームひだまり」の出席生徒はすでに、リアルな居場所に参加することができている。その上で、もうひとつの居場所としてVYCを周知し、利用拡大に努める。
- 一方で、各支援機関につながってはいても自宅等にこもりがちだったり、電話でしか連絡が取れないといった層も一定程度おり、VYCがそうした人たちの「居場所」となれるよう、各支援機関と連携して積極的にアプローチしていく必要がある。
- さいたまユースでは、リアル居場所への来所が少ない利用者に対して、なじみのスタッフを通して一斉メールなどでVYCを紹介している。今後、直接電話する等の個別対応も検討する。

参加者の声を受けて(11月～12月)

- プログラムに関しては「楽しかった」という声も多いが、参加者が少人数の日もある。今後、ターゲットを明確にしたプログラムを打ち出すなど周知方法を工夫していく。引き続き、プログラムに関する要望ややりたいことを聞き取っていく。
- 保護者の方や支援機関につながっている方の中で、自分のペースで参加できることを期待して、バーチャルユースセンターに興味を持ってくれた方がいた。そのニーズに応えられるようなプログラムを検討していく。

参加者の声を受けて(1月～2月)

- 子ども・若者自身が企画するプログラムを増やしていく。
- すでにリアルに居場所を持っている子ども・若者にとって、バーチャル空間は参加の選択肢が増えた状態であり、リアルの居場所の補完的な存在。
- 不登校の状況にある等、居場所を喪失していたり、どこか自分に合う居場所を探している子ども・若者(とその保護者)にニーズがある可能性。
- バーチャル空間での活動を通じて、段階的にリアルの居場所につなぐ橋渡しの場を目指していく。

運営を通じて見えてきたこと

子ども・若者の声から	・ アプリ自体に面白味を求める ・ アバターの自由度、ワールド制作の自由度を求める ・ 「なんとなくふらっと」入れる場所ではない
保護者の声から	・ 県内中心部から離れた地域では、資源が限られている ・ 保護者の困り感、子どもに合う育ちの場や支援機関を探している ・ 保護者自身の孤立
プログラム運営から	・ バーチャル埼玉内では、非言語で「自分らしさ」を出すことが難しいが、非言語で自己表現をしたい子ども・若者もいる ・ スタッフや参加者との関係づくりのために、言語によるコミュニケーションを取らざるを得ないが、即座な言語化が難しい子ども・若者も多い ・ メタバースは大きな可能性を持つ空間であるが、現状は言語によるコミュニケーションに頼るところが大きい
実際の利用状況から	・ さいたまユース利用者 → リアルの居場所にデモに行ったりスタッフが直接誘うと好意的に参加し楽しんでくれている ・ 教育支援センター利用者 → 定着が見られない ・ 一般の申込み → まだ人数が少なく利用状況に波があり、引き続き検証が必要

参加者の声を受けて(3月～5月)

- 「スタッフの顔を見せる」ことが安心感や入ってみようという気持ちにつながることから、継続してこども・若者の居場所づくりを行っている場所にデモを実施する。
- 登録したきっかけの中に、「リアルな居場所を探してバーチャルユースセンターにたどりついた」「中学生時代にいじめに遭い対面でのコミュニケーションが苦手」などがあつた。対人恐怖や集団への恐怖、教師や保護者とのコミュニケーション不足など、他者との関わりを喪失し孤立している層に対して、継続的にアプローチを行っていく。具体的には、SNSによる情報発信を通じたVYCの認知度向上、学校とつながっている子に対しては、各市の教育支援センターや定時制・通信制高校等、地域の「居場所」への訪問やデモをひき続き実施していく。
- 「その他支援機関」につながっている方からの登録が少しずつ増えてきている。事業周知が進んでいていると考えられるため、支援機関への事業周知を継続して行う。
つながっている機関が「特になし」の方からの登録も増えている。これには、さいたまけん★こどものこえアンケート回答者や対象年齢ではない保護者・高齢世代も含まれる。⁽¹⁾

(1) 前回資料からの伸び(人)：さいたまユース+10、支援センター+1、その他支援機関+12、特になし+36

埼玉県バーチャルユースセンター・プログラム概要まとめ(令和6年10月～令和7年5月31日)

	プログラム	実施日	内容	回数	参加者数
1	テーマトーク／推しトーク／ランチトーク	10月8日(火)、15日(火)、22日(火)、29日(火) 11月29日(火) 12月6日(金)、13日(金)、20日(金) イベント/トーク、20日(金) イベント/みちねこ、27日(金) 1月7日(火)、25日(土)、1月31日(水) 2月13日(木)、21日(金)、27日(木)、28日(金) 3月7日(金)、11日(火)、14日(金)、28日(金)/オープンDAY、30日(日)/オープンDAY 4月5日(土)/オープンDAY、11日(金)、15日(火)、18日(金)、22日(火)、25日(金)、26日(土) 5月1日(木)、3日(土)/オープンDAY、7日(水)、9日(金)、20日(火)、21日(水)、27日(火)、29日(木)、31日(土)/オープンDAY	その会ごとにテーマを設定し、ボイスチャットやテキストチャットを使って参加者と自由におしゃべりを楽しむプログラム	38	69
2	哲学・表現コミュニケーションWS ポレポレひろば	10月17日(木) 11月8日(金)、12日(火)、22日(金)、26日(火) 12月3日、10日(火)、17日(火) 1月10日(金)、17日(金)、23日(木)、29日(水) 2月7日(金)、14日(金)、20日(木)、26日(水) 3月6日(木)、13日(木)	YESまたはNOで答えられるクローズドクエスチョンや、テーマを決めたトークで交流するボイスチャットやテキストチャット、アクションボタンを使用し、表現コミュニケーションを楽しむ	18	50
3	宝探し	10月25日(金)	小学生を対象とした「バーチャル埼玉に隠れているアバターを探す」プログラム	1	43
4	探検／はじめてのVYC／おためしVYC	10月1日(火)、8日(火) 2月25日(火)/オープンDAY 3月26日(水)/オープンDAY 3月27日(木)/オープンDAY 3月29日(土)/オープンDAY 4月2日(水)/オープンDAY 4月4日(金)/オープンDAY 4月10日(木) 4月17日(木) 4月24日(木) 5月13日(火)/オープンDAY 5月22日(木)/オープンDAY	初めて参加する方や、不慣れな方へのオリエンテーションとして、バーチャル埼玉ツアーや車座での交流をし、VYCの説明をする	13	27
5	からだの話 ①LGBTQ基礎知識セミナー ②こころの話・からだの話 ③健康教室 ④からだの話	11月1日(金)、19日(火)、5日(火) 1月28日(火)	若者に向けての、からだや心のことについて学ぶ	4	22

	プログラム	実施日	内容	回数	参加者数
6	オフ会	12月26日(木) 1月23日(木)	10月実施のご当地トークプログラムの振り返りをし、煮ぼうとうをあらためて紹介する 実際に煮ぼうとうを作り、いっしょに食べる	2	16
7	講演会トークカフェ特別編	12月20日(金)イベント	講演会 テーマ「世界は失敗作であふれてる！だから面白い、だから進める！」	1	12
8	観るラジオ☆パーたま！	1月16日(木) 2月5日(水) 3月18日(火) 4月3日(木)/オープンDAY 5月29日(木)	スタッフがパーソナリティとなりゲストの話を聴く、ラジオ的プログラム 出演者がそれぞれZoomを通して対談、カスタムパネルにZoomの画面を投影し参加者が視聴する 音声は、車座に配置したアバターのマイクを使用する	5	11
9	見沼の自然を知ろう！	12月13日(金)、27日(金) 1月22日(水) デモ	埼玉県さいたま市内の緑地を画像で見ながら、クイズを交えて自然環境や生き物について学ぶ	3	5
10	VYC向上委員会	2月8日(土)	バーチャルユースセンターに期待することや、やってみたいことを語り合う	1	3
11	スタッフラジオ	5月1日(木) 5月13日(火)/オープンDAY	スタッフトークの配信／スタッフが何気ない日常をトークし、参加者が聴く。チャットの書き込みも受け付ける	2	3

	プログラム	実施日	内容	回数	参加者数
12	プログラミング教室 「スクラッチをやろう」 ※Zoomへ移動	12月6日(金) 1月21日(水) 2月18日(火)	現役のプログラマーを講師に招き、Scratch(スクラッチ)によりプログラミングを学ぶ 車座に集合し簡単な自己紹介の後、門番を残し全員がZoomへ移動。講師の誘導によりスクラッチを体験する	3	2
13	イバシヨビルド	5月18日(日)	「自分たちに必要な居場所とは？」というテーマで、ざっくばらんに語り合い、自分たちが求める居場所について意見発信をする	1	1
14	ゆるっと自習室	12月3日(火)、10日(火)、17日(火) 1月24日(金)、30日(木) 2月12日(水)、19日(水) 3月5日(水)、12日(水)、19日(水) 4月9日(水)、16日(水)、23日(水)、30日(水) 5月8日(水)、15日(木)	ドリルや宿題などを参加者が持ち寄り、各自学習する 質問などにスタッフが答える	16	1
15	暦のハナシ	1月9日(木) 2月4日(火) 3月4日(火) 4月8日(火) 5月7日(水)	西暦と和暦の違いや暦、毎月の行事について学ぶ	5	1
16	若者の声	3月21日(金)	就労支援担当者が進行役となり、子ども若者自立支援ルームを利用して一年経つ若者の経験談を聞く	1	1
17	まったりChill time	5月8日(木) 5月15日(木) 5月22日(木)/オープンDAY 5月27日(火)	環境音楽の配信／学習プログラムや、トークプログラムの後に、環境音楽を聴きながら心身を休める時間を過ごす	4	1
18	発酵の話	1月8日(水)	発酵・発酵食品をテーマに健康や体に良い食事について学ぶ	1	0
19	お仕事トーク	1月15日(水) 2月3日(月) 4月28日(月) 5月20日(火)	各回ごとにテーマを決め、その職業に詳しい講師や現役の業界人を招いて講話や対話形式で話しを聴く	4	0

埼玉県バーチャルユースセンター 運営検討会議について

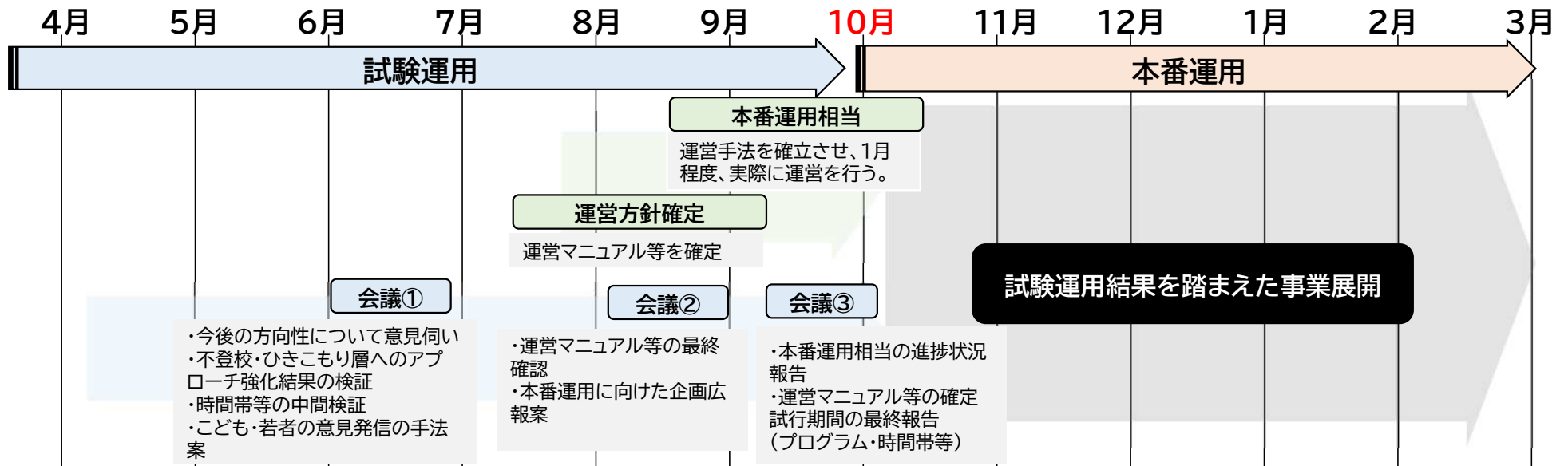
1 目的

埼玉県バーチャルユースセンター事業の運営手法を検討するため、外部有識者等により運営検討会議を設置するもの。

2 会議

委員構成	8人 (学識経験を有する者(教育、心理)、居場所づくり活動実践者、ユーザー関係者、行政機関)
開催頻度	2月に1度程度

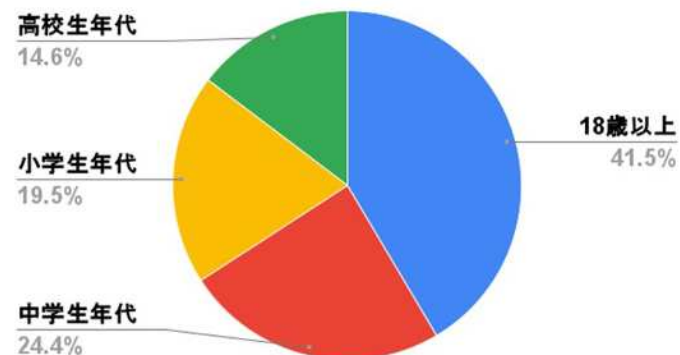
3 スケジュール案



【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

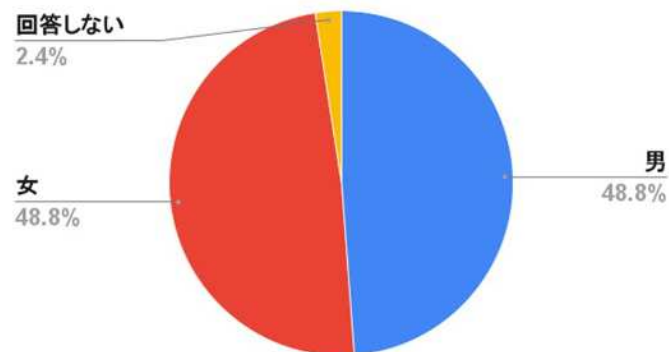
質問① (回答数:41件)

あなたの年代を教えてください。



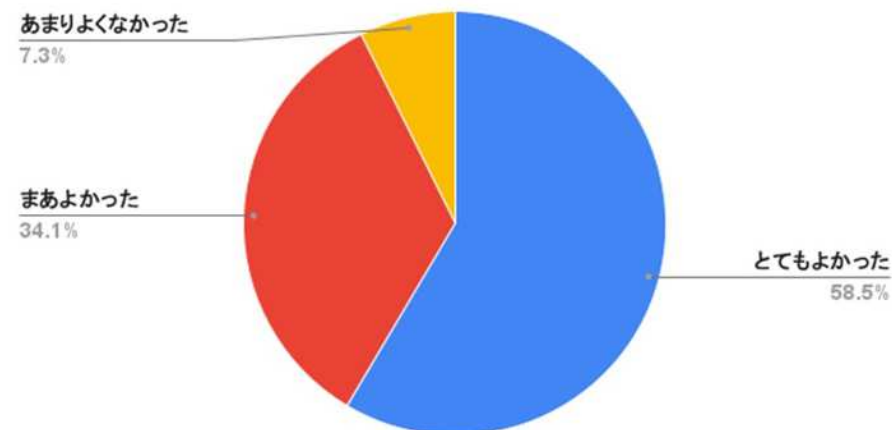
質問② (回答数:41件)

あなたの性別を教えてください。



質問③-1 (回答数:41件)

バーチャル空間でアバターになってバーチャルユースセンターに参加したことについてあなたの考えに近いものを1つ選んでください。



* 本アンケートの回答者は
コンパスナビ、狭山市・本庄市教育支援センター、しっきーず、
地域子育てNW所沢、さいたまあみゅーず、和光高校、そのほか
さいたまユース数名

【留意事項】

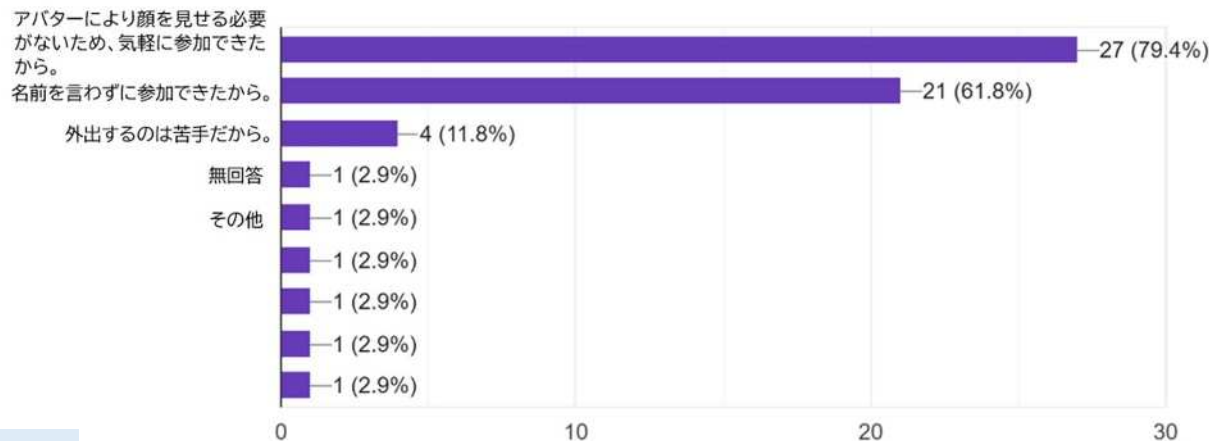
- ①対面でアンケートをとっている。
- ②1～2回程度のデモ参加者にアンケートをとっている。

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問③-2

(回答数:34件)

(「とてもよかった」「まあよかった」を選んだ方にお聞きします。)よかった理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。



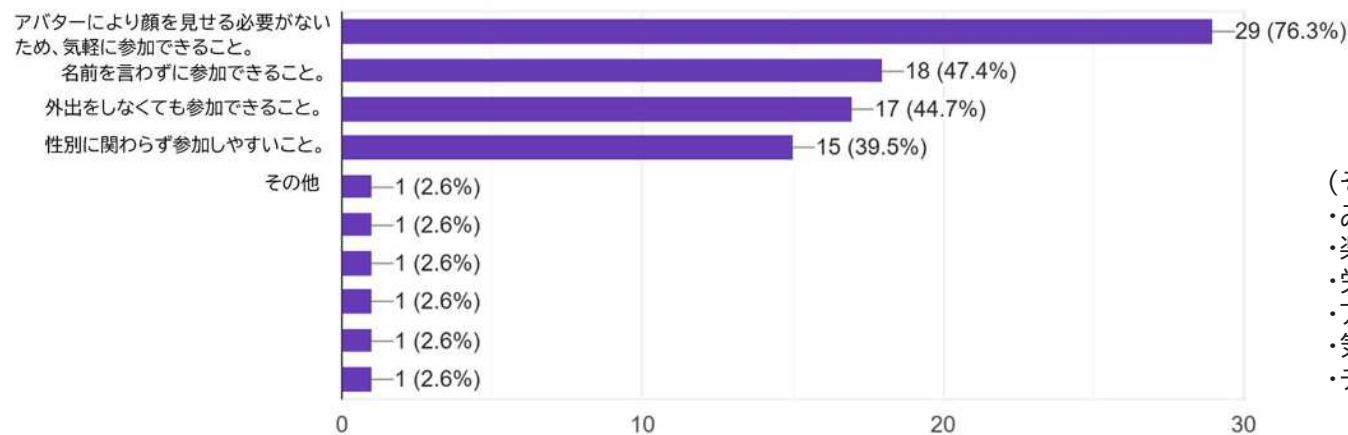
(その他)

- ・色々な人のチャットのコメントが楽しかった。
- ・メタバースを一度体験してみたかったから。
- ・気軽に来ることができるから。
- ・世界観が好き
- ・いろいろあそべてたのしかった

質問④

(回答数:38件)

バーチャル空間の良い点はどのような点だと思いますか。あてはまるものを全て選んでください。



(その他)

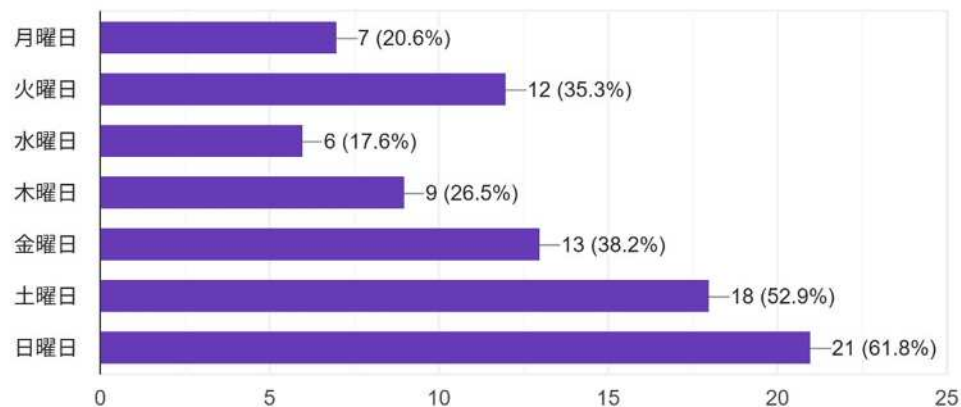
- ・みんなでできたから
- ・楽しかった
- ・労力が少なくていい。寝ながら話せる
- ・アバターの操作ができた
- ・気軽にチャットなどができ、交流がしやすいと思った
- ・チャットの方が緊張しない時もあります

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑤-1

(回答数:34件)

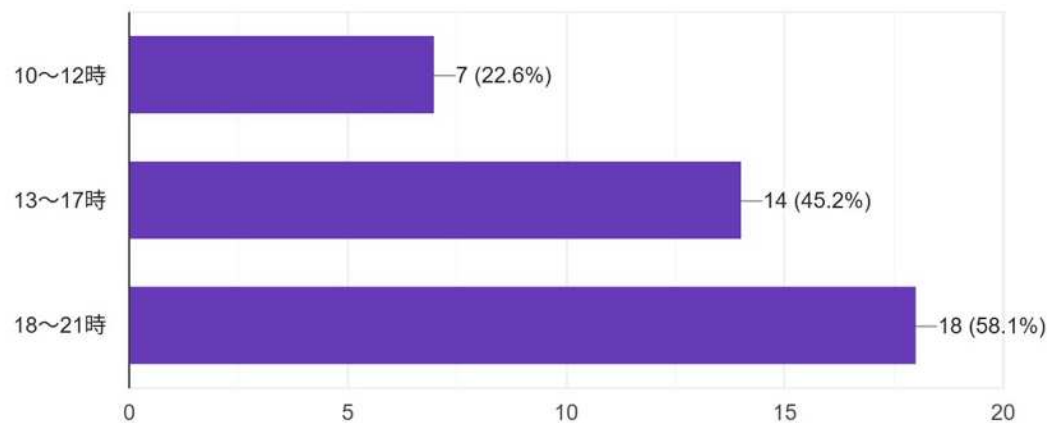
バーチャルユースセンターに参加しやすい曜日について、あてはまるものをすべて選んでください。



質問⑤-2

(回答数:31件)

バーチャルユースセンターに参加しやすい時間帯について、あてはまるものをすべて選んでください。

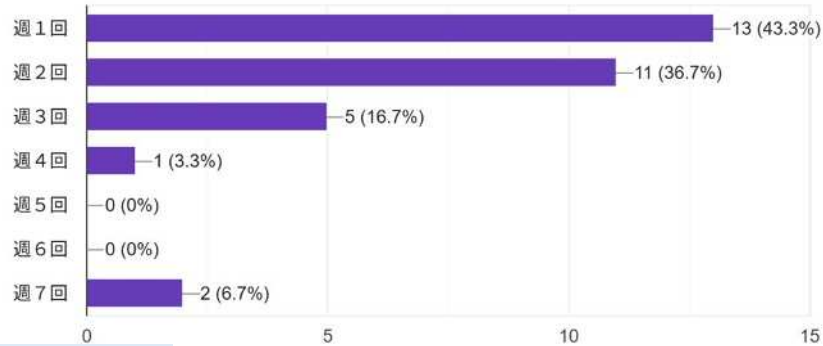


【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑤-3

(回答数:30件)

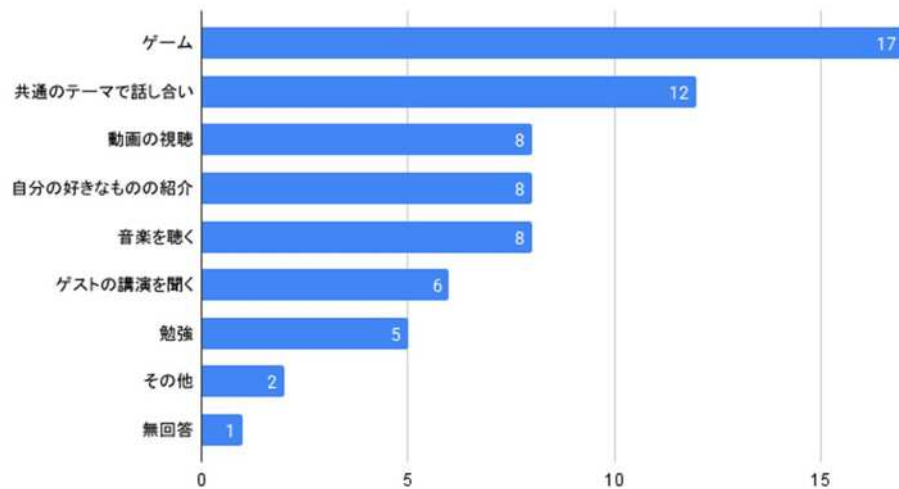
バーチャルユースセンターに参加しやすい回数について、あてはまるものをすべて選んでください。



質問⑥

(回答数:40件)

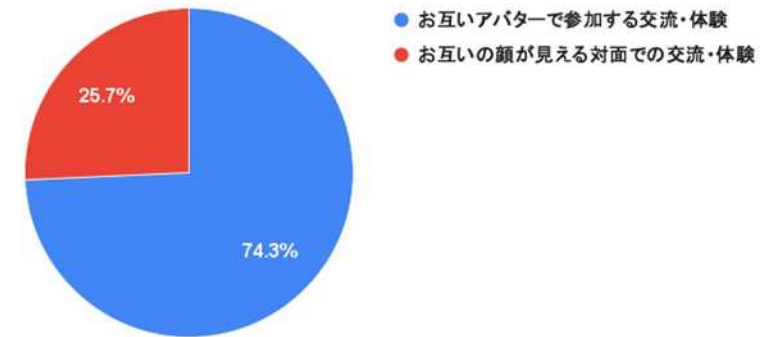
実施してほしい交流・体験プログラムを1つ選んでください。



質問⑦-1

(回答数:35件)

若者どうしの交流・体験プログラムに参加する際、お互いの顔が見える対面型と、お互いアバターで参加するバーチャル型のどちらかを選べる場合、あなたが参加したい方を選んでください。



(その他)

- ・全部
- ・ラジオ
- ・志木市を作ってほしい

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑦-2

(回答数:24件)

その理由を教えてください。

お互いの顔が見える対面での交流・体験	相手の方の表情や声のトーン、しぐさがとてもよくわかるし、一緒に話題や感情を共有するには、個人的意見として対面の方が深く関われると僕は考えて、僕自身人の表情がわかりにくくて文章やリアクションだけだと誤解を生むこともあると考えたからです。
	表情などがわかりやすい
	表情が見えた方が相手の気持ちがよくわかるから、話しやすいと思うから。
	相手がどのような人かわからない上で関わりたいと思う。信頼関係が成り立っていない人に話をしたいと思わない。(バーチャル上で)信頼関係をどう築くかが課題。
	そのほうがなかよくなれそうだから

お互いアバターで参加する交流・体験

顔を出したくないから

今は顔を見せることに(あまり)抵抗はないが、見せたくない人が多いと思うので、それに合わせたい。

わざわざ「現地で集まる」という労力を使わなくていいから。金銭的な面で困っている人からすると、バーチャルで集まることにメリットがある。

顔を出したくない人もいるから

その方が緊張しないので

顔見えるの気まずい

なんとなく

顔は気まずいから

現実社会だと、どうしても外見を気にしてしまい、出かけるために準備する時間がかかってしまうため、出かけて人に会うということのハードルが上がりがめんどくさくなってしまいますが、アバターであれば自分が思い立ったときにすぐにバーチャル空間に出て他人と交流できるから

アバターを使うことで、対面の緊張感少なく気軽に交流できるから。身だしなみを気にせずに参加できる。

初対面の方とも気兼ねなく会えると思うから

人見知りでも参加しやすい

自由が好き

色んな人と関わったり、楽しめられるから。

顔を見せるひつやうがないため、プライベートが安全。

アバターの方がかわいいから。

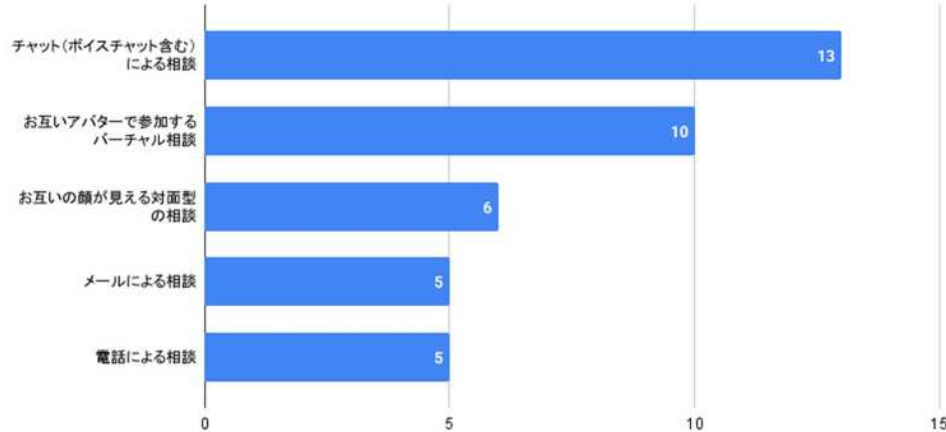
対面だとなんかちょっとやだ。さんかしずらい。

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

質問⑧－１

(回答数:24件)

(相談利用者のみ回答)あなたが悩みごとを相談する場合、どのような相談方法なら利用したいですか。あなたが利用したい方法をすべて選んでください。



質問⑧－２

(回答数:15件)

その理由を教えてください。

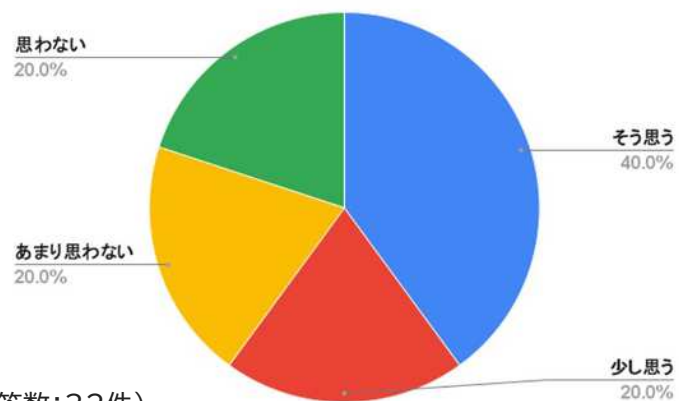
お互いの顔が見える対面型の相談	対面の方がラポールが形成しやすいから、相手の表情が見えるのは重要だ。
お互いアバターで参加するバーチャル相談	- 顔を見せずにメッセージなどを送り、リアクションがいっぱいあり、メールなどだと相手の思っている気持ちがわからないので、リアクションがあるのはとても良いと思った。 - 安全だし、話しやすい。

メールによる相談	・アバターも顔もみえないから ・とくにない ・対めんだと相だんしづらいしなんかきまずい。
チャット(ボイスチャット含む)による相談	・話しやすいから ・楽だから
電話による相談	聞き取り／相談は信頼のおける人にする。顔が見えない人には相談しない。 一度会ったことがあるのが前提 で、対面で相談したい。バーチャル上では相談しない。
お互いの顔が見える対面型の相談、電話による相談	自分の話(悩み事)をする際に、できるだけ 的確に伝える には文章やアバターだとなかなか伝わりにくいので、声や相手の顔がわかって自分の気持ちが伝わりやすい電話や対面がいいと思いました。
お互いの顔が見える対面型の相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談	どのような人と話しているかわかることで、安心感を得られるため。
メールによる相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談	文章を書く方がラクだし、 気軽な 感じがするから。
お互いアバターで参加するバーチャル相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談	バーチャル相談のほうがはなしやすいそうだから。
お互いの顔が見える対面型の相談、お互いアバターで参加するバーチャル相談、電話による相談	リアルタイムで話せる。アバターや電話だと顔をあわせなくてよい。
お互いの顔が見える対面型の相談、お互いアバターで参加するバーチャル相談、チャット(ボイスチャット含む)による相談、電話による相談	内容によってツールを選べるのが良い かなと思った。

【参考】埼玉県バーチャルユースセンター デモ参加者アンケート結果

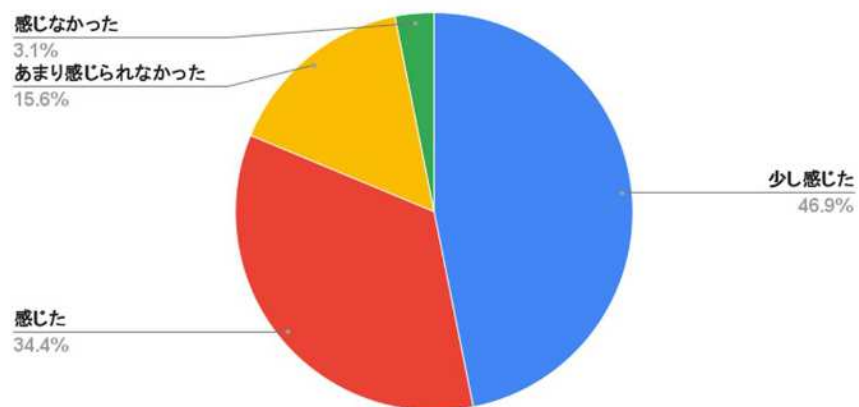
質問⑨ (回答数:25件)

(相談利用者のみ回答)バーチャル空間であれば、人に相談しにくいことも相談しやすいと思いますか。
あなたの考えに近いものを選んでください。



質問⑩ (回答数:32件)

バーチャルユースセンターを家(普段寝起きしている場所)や学校(授業や部活、クラブ活動)以外の「ここに居てもいい」という居場所と感じたか、
あなたの考えに近いものを1つ選んでください。



【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

さいたまけん★こどものこえ

活動内容

- 県政等に関するWEBアンケートへの回答
- その他、こどもの意見表明に関する取組への協力

募集対象

1 埼玉県内に在住し、応募時点において以下のいずれかの区分に該当する方

- ① 未就学児(埼玉県内在住)の保護者 ※ 保護者は県外在住の者を含む。
- ② 小学生低学年(1年生から3年生)
- ③ 小学生高学年(4年生から6年生)
- ④ 中学生
- ⑤ 高校生相当年齢

2 上記1②～⑤の区分の申込者の保護者

*** 主に一般家庭の回答が多いと推察される。**



アンケート結果【こども】

調査の概要

アンケートテーマ バーチャル空間の遊び場について
 アンケート期間 令和7年2月14日～令和7年2月28日
 対象メンバー数 1,566人
 回答数 933人
 回答率 59.6%

属性	人数(人)	比率(%)
保護者(未就学児)	179	19.2
小学校低学年(1～3年生)	265	28.4
小学校高学年(4～6年生)	293	31.4
中学生	126	13.5
高校生	70	7.5
合計	933	100

調査の目的

埼玉県では、みんなが楽しく安全に遊べる、バーチャル空間の遊び場「埼玉県バーチャルユースセンター」を作りました。

この遊び場では、みんなが好きなアバターになって、友達やスタッフとチャットしたり、お話したりできます。

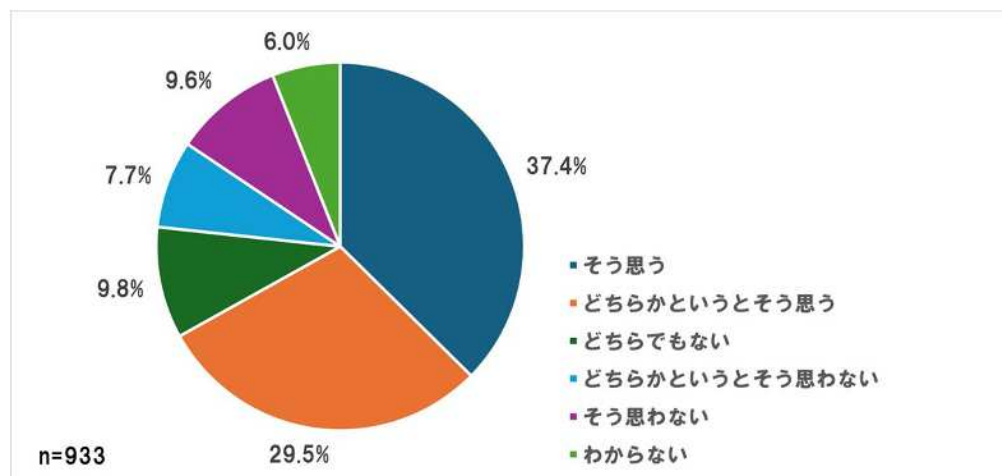
遊び場をもっと楽しく、みんなが使いやすいようにするために、アンケートにご協力いただきました。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問①

埼玉県が運営するバーチャル空間の遊び場に興味がありますか。(1つえらんでください。)

→ 『そう思う(計)』が6割半ば超(37.4%)



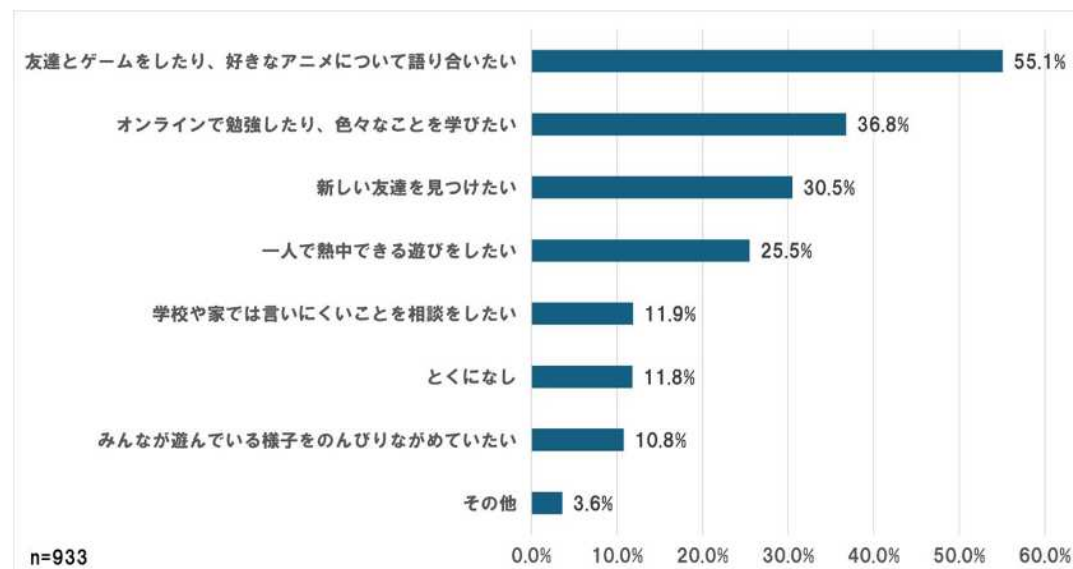
【分析】

「そう思う」(37.4%)と「どちらかというと思う」(29.5%)を合わせた『そう思う(計)』が6割半ば超(66.9%)でした。

質問②

バーチャル空間の遊び場では、どのようなことをしたいですか。(すべてえらんでください。)

→ 「友達とゲームをしたり、好きなアニメについて語り合いたい」が5割半ば(55.1%)



【分析】

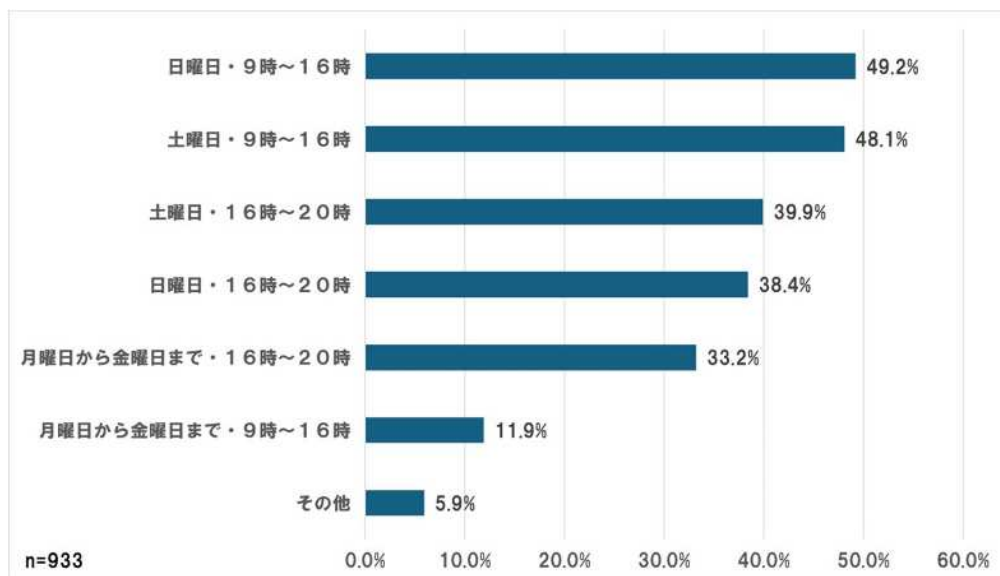
「友達とゲームをしたり、好きなアニメについて語り合いたい」が最も多く5割半ば(55.1%)でした。次いで、「オンラインで勉強したり、いろいろなことを学びたい」が3割半ば超(36.8%)でした。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問③

どの時間帯であればバーチャル空間の遊び場を利用したいと思いますか。(すべてえらんでください。)

→ 「日曜日・9時～16時」が5割弱(49.2%)



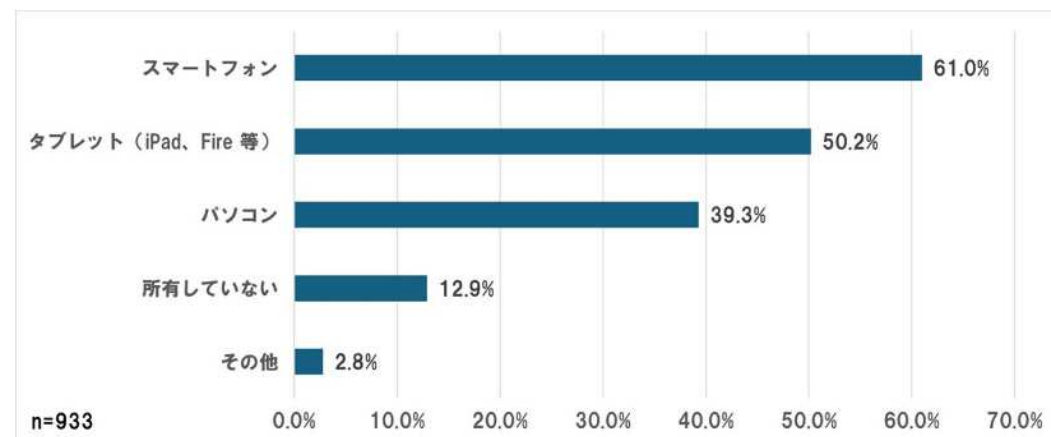
【分析】

「日曜日・9時～16時」が最も多く5割弱(49.2%)でした。次いで、「土曜日・9時～16時」も5割弱(48.1%)でした。

質問④

自分が使用できる、自分や保護者(ほごしゃ)のパソコン、スマートフォン、タブレット等がありますか。(すべてえらんでください。)

→ 「スマートフォン」が6割強(61.0%)



【分析】

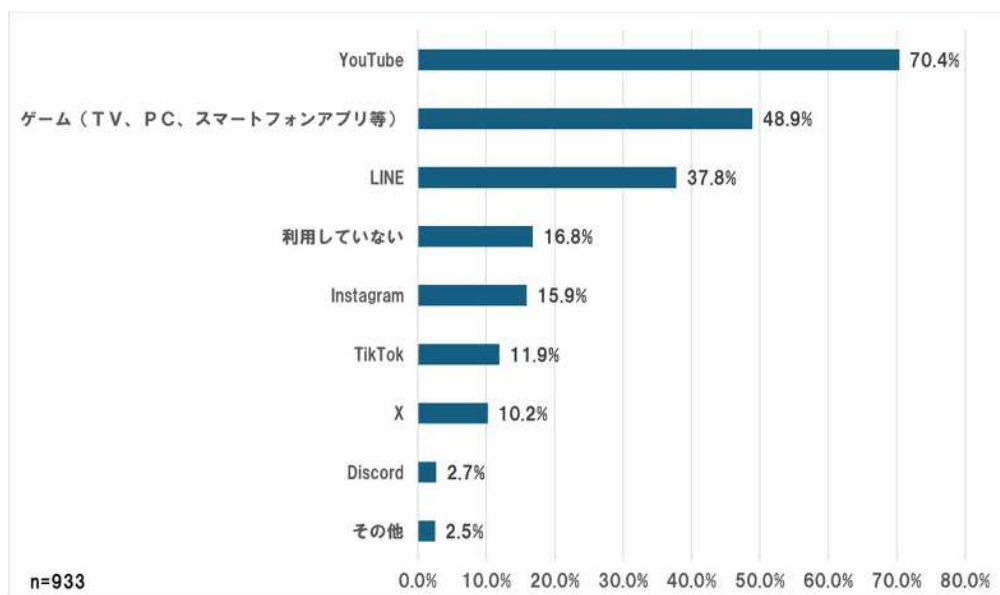
「スマートフォン」が最も多く6割強(61.0%)でした。次いで、「タブレット (iPad, Fire 等)」が5割強(50.2%)でした。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問⑤

ふだん利用しているオンラインサービスを教えてください。(すべてえらんでください。)

→ 「YouTube」が7割強(70.4%)



【分析】

「YouTube」が最も多く7割強(70.4%)でした。次いで、「ゲーム(TV、PC、スマートフォンアプリ等)」が5割弱(48.9%)でした。

質問⑥

バーチャル空間の遊び場をもっと楽しくするアイデアがあったら教えてください。

(例)勉強のことでわからないことを聞ける人がいたらうれしい！

<主なご意見>

- 気軽に聞ける雰囲気だといい。
- いろんな仕事のことをきける人がいたらいいな。
- 学校の先生や友達の事を簡単に相談できる場所がほしい。
- 危険がないのが分かる遊び場であってほしい。
- みんなで遊べるようなことがあったらうれしい。
- 自分の趣味や特技を活かせる場がほしい。(勉強を教えあったり、質問に答えたり)
- 勉強を教えてほしい。
- 同じ趣味とか悩み事があればその人たちと話したり、一緒に考えたりしたい。
- みんなで協力するゲームイベントなどがあればより楽しくなると思います。
- 共通の趣味について語り合える場。
- ゲームの大会があったら楽しいかも。

※ 上記を含め、計383件の貴重なご意見をいただきました。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

アンケート結果【保護者】

調査の概要

アンケートテーマ バーチャル空間の遊び場について
アンケート期間 令和7年2月14日～令和7年2月28日
対象保護者数 215人
回答数 86人
回答率 40.0%

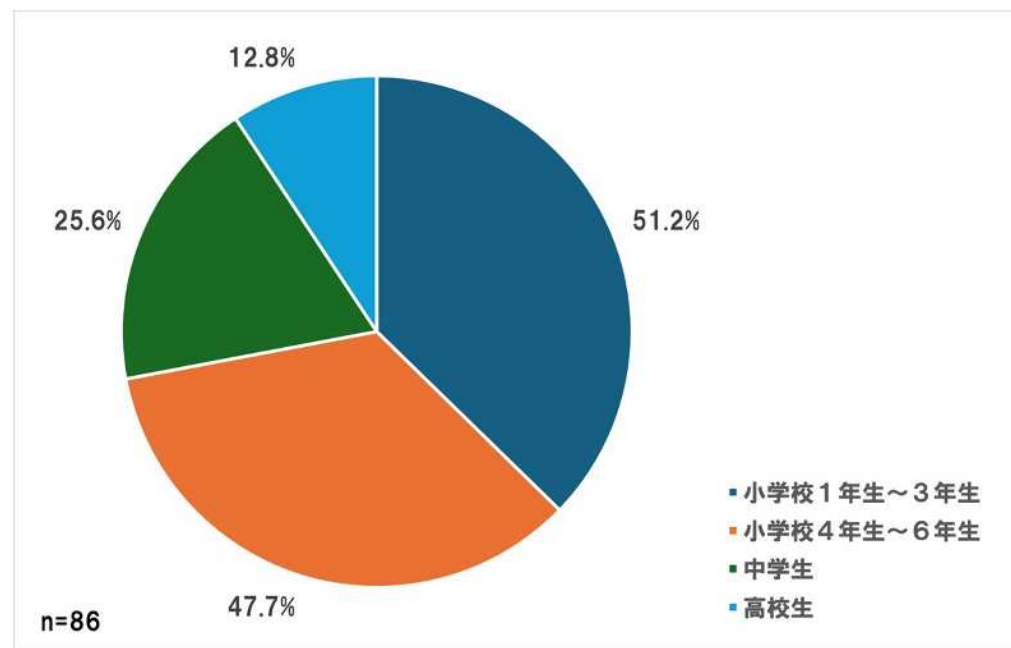
調査の目的

県では、バーチャル空間上に、アバターを使ってこども・若者が安心して気軽に参加でき、体験・交流・相談等の機能を備えた居場所として埼玉県バーチャルユースセンターを令和6年10月から試験的に設置しました。本事業の更なる展開を目指すにあたり、「さいたまけん★こどものこえ」のメンバーの保護者の皆さまにご意見を伺い、今後の参考とさせていただくため、アンケートを実施しました。

質問①

お子様の学年を選択してください。(全て選択してください。)

→ 「小学校1～3年生」が5割強(51.2%)



【分析】

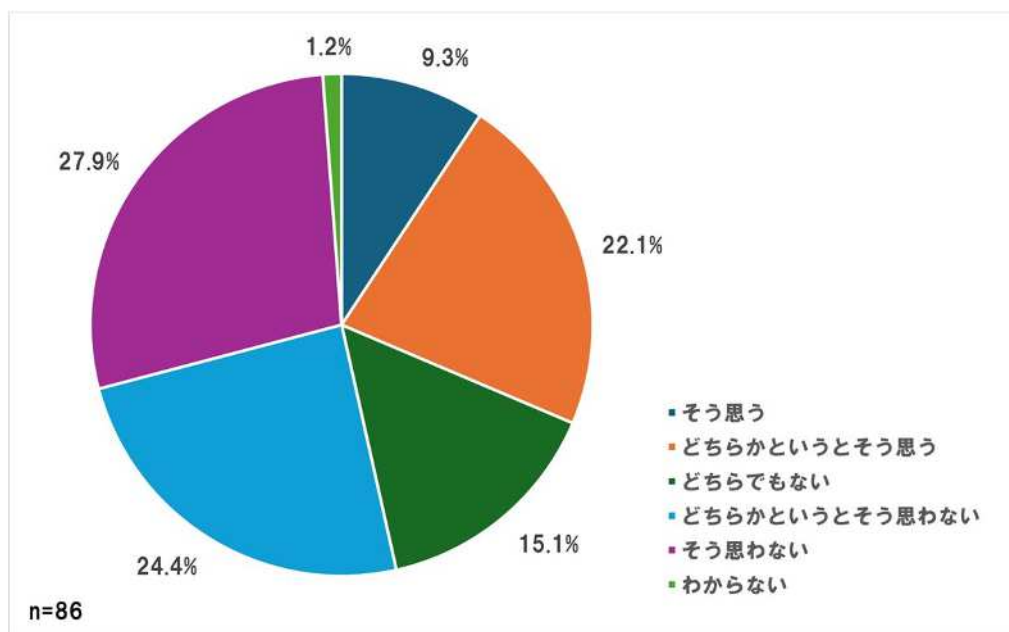
「小学校1年生～3年生」が最も多く5割強(51.2%)でした。次いで、「小学校4年生～6年生」も4割半ば超(47.7%)でした。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問②

お子様に、バーチャル空間上の居場所を利用させたいと思いますか。
(1つ選択してください。)

→ 『そう思わない(計)』が5割強(52.3%)



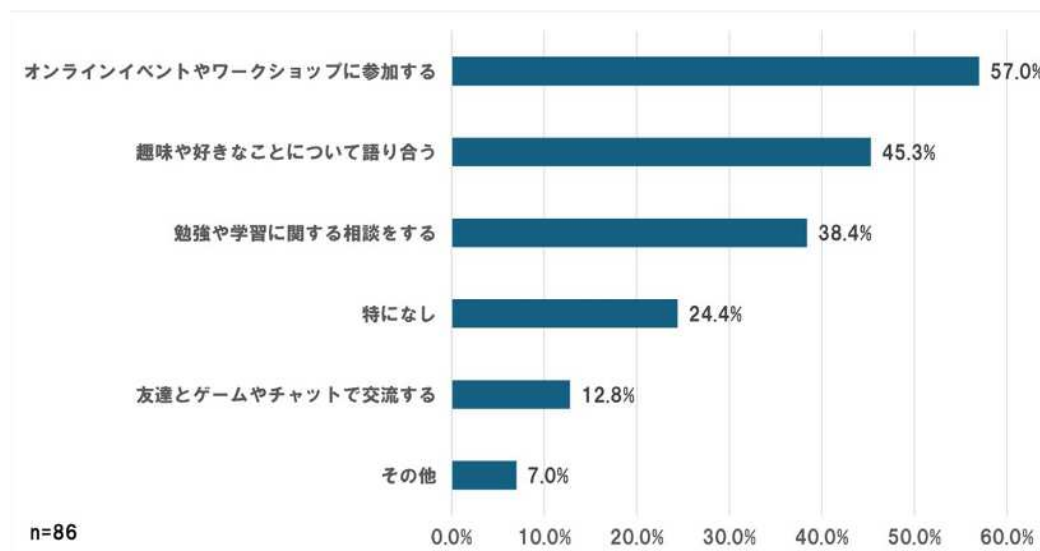
【分析】

「そう思わない」(27.9%)と「どちらかというと思わない」(24.4%)を合わせた『そう思わない(計)』が5割強(52.3%)でした。

質問③

お子様が、バーチャル空間上の居場所で、どのような活動をしてほしいと思いますか。(全て選択してください。)

→ 「オンラインイベントやワークショップに参加する」が5割半ば超(57.0%)



【分析】

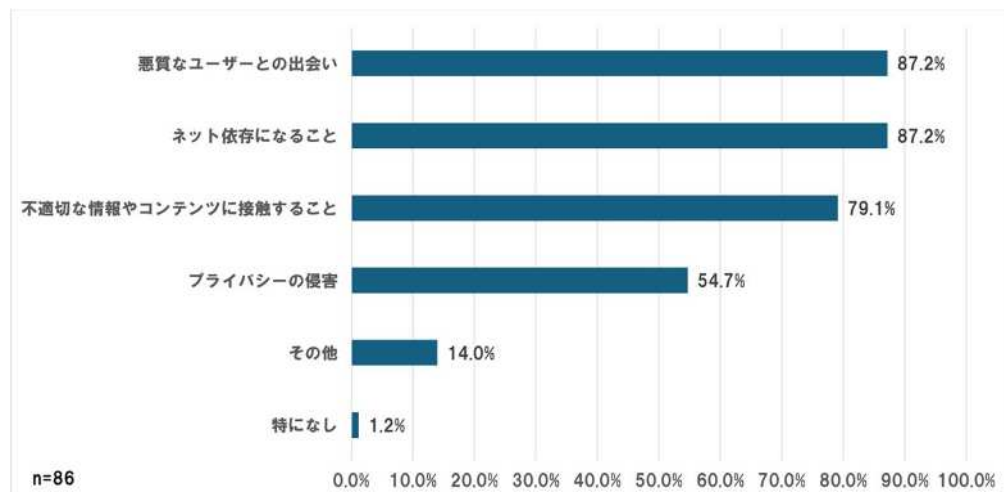
「オンラインイベントやワークショップに参加する」が最も多く5割半ば超(57.0%)でした。次いで、「趣味や好きなことについて語り合う」が4割半ば(45.3%)でした。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問④

お子様がバーチャル空間上の居場所を利用する際に、どのような点に不安を感じますか。(全て選択してください。)

→ 「悪質なユーザーとの出会い」「ネット依存になること」が8割半ば超(87.2%)



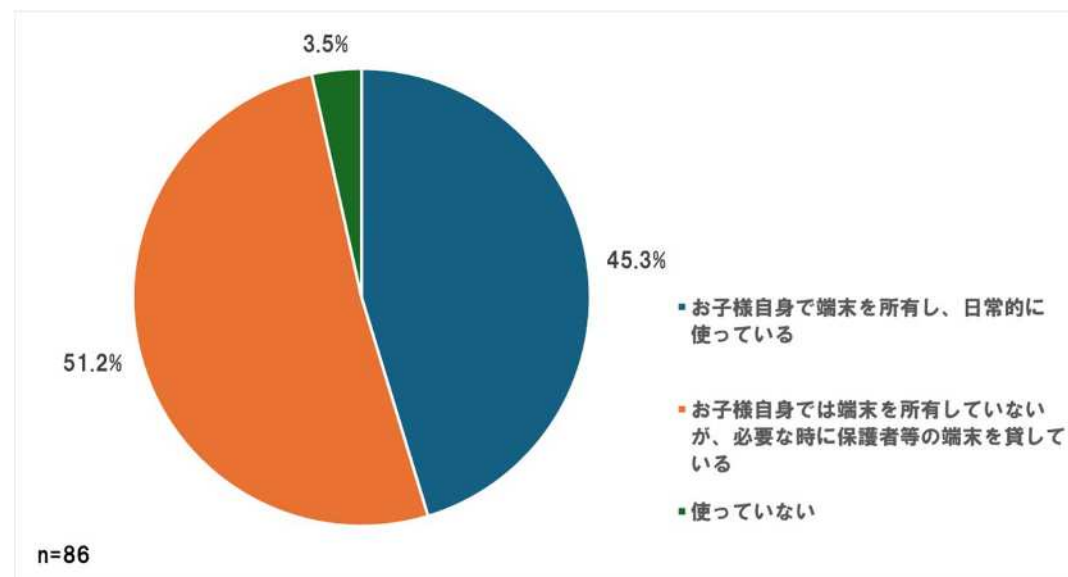
【分析】

「悪質なユーザーとの出会い」と「ネット依存になること」が最も多く8割半ば超(87.2%)でした。

質問⑤

お子様はご自宅において、インターネットに接続できるパソコン、スマートフォン、タブレットなどを日常的に使用していますか。(1つ選択してください。)

→ 「お子様自身では端末を所有していないが、必要な時に保護者等の端末を貸している」が5割強(51.2%)



【分析】

「お子様自身では端末を所有していないが、必要な時に保護者等の端末を貸している」が最も多く5割強(51.2%)でした。次いで、「お子様自身で端末を所有し、日常的に使っている」が4割半ば(45.3%)でした。

【参考】さいたまけん★こどものこえ アンケート結果・バーチャル空間の遊び場について

質問⑥

保護者向けにどのような説明があるとよいと思いますか。
(例: プログラムの内容や参加者の年齢層、安全対策、保護者のためのサポート体制等)

<主なご意見>

- 全くやり方がわからないため丁寧な説明があるとよいと思います。また電話でやり方を教えてくださる窓口があると助かります。
- バーチャル空間が無秩序な状態ではない、という安心感が欲しい。
- まず時間について、例えば1時間見たら強制的に30分間休ませるなどしてくれると良い。また、バーチャルの空間に居場所があること自体は良いと思うが、そこからどうリアルな生活につなげるかまで示してほしい。
- 匿名での利用禁止、登録については個人を証明するものを必須とし定期的に本人と保護者の確認を必要とするなどがないと親の立場では利用させる気にならない。
- リアルへの関心が薄れないための工夫について
- 利用することによる効果の検証
- 不適切な情報やコンテンツに接触しないようにするための対応策。ネット依存にならないために、子どもへの対応策。
- バーチャル空間のメリットとデメリットを聞きたい。
- バーチャル空間で居場所が必要な理由
- 視力が低下すること、スマホ首になること、長時間の利用で考える脳が働かなくなること

※ 上記を含め、計52件の貴重なご意見をいただきました。

彩の国 埼玉県

わたしたちの未来には、
わたしたちの意見が必要だから

さいたまけん★こどものこえ メンバー募集のお知らせ

こどもたちの思いや考えを生かし、こどもの幸せにつながる、日本一暮らしやすい埼玉県をつくるために、「さいたまけん★こどものこえ」のメンバーを募集します！
メンバーのみなさんには、埼玉県をより良くするための取組やこどもに関係する施策等への意見のほか、あったらいい遊び場、学校で体験したい活動などについて、インターネットを使ったアンケートに答えていただきます。ぜひ、皆さんの声を聴かせてください。

募集期間
令和6年8月1日(木)から
令和6年9月30日(月)まで

わたしたちだって
意見を言いたい！

埼玉県マスコット
「コバトン」「さいたまっち」

募集対象
【こども】小学生・中学生・高校生の年齢の人
【大人】参加する小学生から高校生の保護者(養育者)
※本県学児を育てている保護者(養育者)も応募可能です。

募集人数
1,000人程度 ※応募者多数の場合は抽選となります。

アンケートに1回以上答えると全員に
図書カード**500円分**
プレゼント！
※小・中・高校生の保護者(養育者)の方は対象外。

詳しくは、ホームページ「さいたまけん★こどものこえのメンバー募集について」をご覧ください。

さいたまけん こどものこえ <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0607/kodomonokoe/bosyuu.html>

【前回報告】埼玉県バーチャルユースセンター試行について

仮 説	検証状況
こども・若者にバーチャルの居場所があれば継続した利用があるのではないかな。	リアルに居場所のある人の利用は継続せず、リアルに参加しづらい人の利用は継続する傾向がある。 - リアルな居場所、教育支援センター、校内居場所カフェ等利用者に対しデモ等行ったが、実際の利用や再度の利用に結び付かない傾向にある。 - 既にリアルに居場所があるため、バーチャルの居場所に行く理由があまりないという意見もあり。
不登校・引きこもり等においてニーズがあるのではないかな。	リアルに参加しづらい人に一定のニーズがあると考えられる。 - 少ないながら、不登校・引きこもり等のこどもの親から相談があった。 - 支援機関従事者から、不登校・引きこもり等へのアプローチとして有効ではないかという話が多くあった。
バーチャル空間でコミュニケーションをとれたら楽しいのではないかな。	楽しみ方は人によって違いがあるため、ニーズを踏まえた魅力を提供する必要がある。 - コミュニケーションはリアルの方がとりやすい(表情や仕草等)面もあるため、他の魅力(例;プログラミング教室)も提供していく必要がある。 - 年齢層だけではなく、人それぞれで魅力とを感じるポイントが異なる。
こども・若者にバーチャルの匿名性が有効ではないかな。	匿名性は有効と認められる。 顔出ししても問題ないと答えた方の利用は継続せず、匿名を希望した者の利用が継続する。
バーチャル空間であれば、誰でも気軽に入れるのではないかな。	誰でも気軽に参加できる環境整備を進める必要がある。 - 行政の運営する居場所には安全性を求める声が多いため、利用にあたって登録手続きを整備することが望ましい。 - 使用にあたっては、自分の端末や安定した通信環境を有することが必要。 - 開室時間が限られているため、事前に日程調整が必要等、一定の不便さがある。
バーチャル空間であれば県内全域から利用があるのではないかな。	県内各地での利用が進んでいる。 - 更に支援団体の少ない地域での検証を進める必要がある。 - 各地の参加者をつなぐような利用を進める必要がある。

今後の試行の方向性

・ 安全性の更なる担保	安全性を一定担保した上で、「誰でも気軽に」利用できる環境整備に取り組む。
・ ニーズある層へのアプローチ強化	ニーズがあると推察されるリアルに居場所がない(あるけども居場所と感じられない)層へのアプローチ強化。(例:不登校・ひきこもり支援団体等)
・ 多様なプログラムの設定	様々なニーズに対応できる多様なプログラムを用意し、プログラムごとの定着を確認する。
・ 時間帯等の利便性向上	開室時間等の多様化、事業情報のアクセス性を高めることで利用者の利便性向上を図る。 (例:週2×4時間⇒週4回×2時間(土含む)、開始時刻を13時～夜の間に設定、HPに事業説明動画やイベントカレンダーの掲載 等)

メタバースにおける交流事業は、リアルに参加しづらい人のニーズや有益性が見込まれることから**事業を継続し**、更に試行を積み重ね、最も効果的な運営形態を**引き続き検証し、令和7年10月の本格稼働を目指したい。**

【前回報告】埼玉県バーチャルユースセンター中間報告

仮 説	検証状況
子ども・若者にバーチャルの居場所があれば継続した利用があるのではないかな。	リアルに居場所のある人の利用は継続せず、リアルに参加しづらい人の利用は継続する傾向がある。 ・ リアルの居場所、教育支援センター、校内居場所カフェ等利用者に対しデモ等行ったが、実際の利用や再度の利用に結び付かない傾向にある。
不登校・引きこもり等においてニーズがあるのではないかな。	リアルに参加しづらい人に一定のニーズがあると考えられる。 ・ 不登校・引きこもり等のこどもの親からの相談や、支援機関から不登校・引きこもり等へのアプローチとして有効ではという意見があった。
バーチャル空間でコミュニケーションをとれたら楽しいのではないかな。	楽しみ方は人によって違いがあるため、ニーズを踏まえた魅力を提供する必要がある。 ・ コミュニケーションはリアルの方がとりやすい(表情や仕草等)面もあるため、他の魅力(例;プログラミング教室)も提供していく必要がある。
子ども・若者にバーチャルの匿名性が有効ではないかな。	匿名性は有効と認められる。 ・ 顔出ししても問題ないと答えた方の利用は継続せず、匿名を希望した者の利用が継続する。
バーチャル空間であれば、誰でも気軽に入れるのではないかな。	誰でも気軽に参加できる環境整備を進める必要がある。 ・ 行政の運営する居場所には安全性を求める声が多いため、利用にあたって登録手続きを整備することが望ましい。 ・ 使用にあたっては、自分の端末や安定した通信環境を有することが必要。 ・ 開室時間が限られているため、事前に日程調整が必要等、一定の不便さがある。
バーチャル空間であれば県内全域から利用があるのではないかな。	県内各地での利用が進んでいる。 ・ 更に支援団体の少ない地域での検証を進めるとともに、各地の参加者をつなぐような利用を進める必要がある。

	ターゲット層の可能性	① 家庭・学校・地域等のどこかに居場所があり所属感を持てる層 ⇒ 信頼するスタッフ(キーパーソン)や仲間とリアルで過ごすことに価値を感じている。 ただし、バーチャル空間の居場所は、選択肢がひとつ増えるものであり、リアルとバーチャルの相互補完的關係。
	展望	② 引きこもり状態や不登校等、生きづらさや困り感を抱える層(特にニーズがあると思われる層) ⇒ 場への安心感を求める傾向がある。ただし、参加までのハードルが高いため、強い「参加意識」が求められる。
		① 子ども・若者の声を聴く、やりたいことを実現する仕組みをつくる ⇒ プログラムの工夫、バーチャル埼玉以外のコミュニティを整備する。 ② バーチャル空間から段階的にリアルの居場所につなぐ橋渡しの場を目指していく

今後の議論

- 事業の方向性(解決すべき課題)の明確化
- 事業対象者に届く最も効果的な広報手法の検討
- リアルとバーチャルの相互補完的な関係の在り方
- それぞれの目的に合った最適なプラットフォームの検討

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

利用実績分析

* 自発的利用者数・・・デモ参加者、スタッフがリアルな居場所で声掛けをした参加者を除いた人数

月	利用者延べ人数	内、自発的利用者延べ人数*	自発的利用者実人数
令和6年10月	99名	3名	
11月	102名	4名	
12月	71名	29名	「つながる埼玉フェスタ」で延べ15名参加
令和7年1月	41名	6名	
2月	30名	8名	
3月	19名	9名	8名(内、未登録者7名)
4月	9名	9名	5名(内、未登録者2名)
5月	45名	20名	13名(内、未登録者9名)
合 計	416名	88名	

デモやリアルな居場所で声掛けをして参加したものの中から、自発的利用につながっている例はある

リアルな居場所のある人の利用は継続しない傾向にあるが、**デモ等からその後の自発的利用につながっている例はある**
ただし、自発的利用者からメタバース空間上で詳細の聞き取りやアンケートをとることは困難

自発的利用者の中には、オープンデー参加の未登録者が一定数おり、継続して利用している(と思われる)利用者がある

バーチャル空間に興味を持っている層が一定数いるものと推察される

また、未登録であるため詳細は不明であるが、オープンデーに複数回参加している(と思われる)利用者もいる

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

事業目的

- あらゆるこども・若者が誰でも気軽に利用できる居場所の設置・運営【理念】
- 居場所がなく孤独を感じる、あるいは孤立しているこども・若者がバーチャル空間での交流などを通じて、安心して気持ちを表現し、自分のことを全てさらすことなしにつながって、自己実現を図ることができる【主なターゲット層・目的①】
- スタッフと信頼関係を構築し、抱える困難の深刻化の予防や早期対応を図る【目的②】

目指すべき運営の形

◆ 誰でも自由に気軽に出入りができる居場所

◆ 目的や成果が求められない余暇活動の場や、利用者が共感や自己表現を図ることができる居場所

◆ スタッフとの信頼関係があり、スタッフに会いに来れる居場所

検討要素 ○促進要素、●阻害要素

- 匿名性が高い
- オープンチャットで安全性がある
- リアルタイムコミュニケーションがとれる
- どこからでも参加ができる
- 事前登録が必要
- 開室時間に合わせる必要がある
- デジタルツール等が必要
- 保護者の安全性に対する懸念が大きい

- 匿名性が高い
- 聞くだけの参加も可能
- 利用者企画のプログラムの実施が可能
- 非言語コミュニケーションは困難
- 表現はテキストチャットのみ
- オープンチャットのため利用者間でのコミュニケーションがとりにくい

- スタッフは固定
- スタッフはボイスチャットで話しかけられる
- 事前登録時にスタッフが個別把握を行う
- アバターコミュニケーションの制約
- 講義型プログラムになりがち
- オープンチャットのため利用者の個別対応が困難

➡ 「自由」「気軽」と「安全性」の両立が課題

利用時間帯

安全性

➡ 事業の目的達成に資するユースワークプログラムの実施

プログラム内容

➡ オンライン空間でのスタッフとの信頼関係醸成に時間がかかることが課題

利用者との関係性

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

利用時間帯

現在の運営状況

○週3日開室(火・木曜×3時間、土日いずれか1日×2時間)
○火曜は午前中(10:00～12:00)、木曜は午後(15:30～17:30)、土日は夜間も含めて実施
⇒一部の時間を固定化することで、利用者が開室時間を把握しやすくなる
⇒火曜の午前中は、不登校・ひきこもり層へのアプローチ強化のため
⇒週開室日数を4日から3日にすることで、デモ等の周知・広報を増やしている

【参考】

・「デモ参加者等アンケート」の結果によると、土日及び午後～夜間(21時)の希望が多い
・「さいたまけん★こどものこえ」アンケートにおいても同様の傾向

課題

●案内にあたり、「火・木曜及び土日のいずれか」では土日に参加したい層の開室時間の把握が不便
●利用実績の判断にあたり、母数(自発的利用者数)が不十分であることから、統計的な分析をすることが難しい

今後の方向性(案)

利用者の利便性向上を図るため、**週3日の開室時間を固定化する**
(平日2日・午前午後、日曜夜間)

- ① 日中に参加できる層、学校終わりに参加できる層、土日に参加できる層がそれぞれ利用できるよう分ける。
- ② 開室時間を固定化することにより、利用者の利便性向上が期待される

【懸念】

・固定化した時間帯が最適かどうかの判断が困難
⇒一定期間固定化し、他により適切な時間があることが判明した場合は、適宜見直しを行う

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

安全性①

現在の運営状況

- 開室時間中はスタッフが常駐し、部屋に入るためにはスタッフの許可が必要
- 利用者間のチャットを禁止
- 不適切行動があった場合は管理者権限により強制退室
 - ⇒空間内の安全性の確保
- 事前登録制とし、義務教育年代は保護者に電話連絡、それ以外はメール連絡
 - ⇒なりすましの防止
- 長時間利用にならないよう適宜声掛け
 - ⇒長時間利用への対応
- 月に数回、未登録者でも利用が出来るオープンデーを開催
 - ⇒未登録者利用の検証も含め、興味がある層への体験利用の機会を設ける

【参考】

「さいたまけん★こどものこえ」の保護者向けアンケートの結果によると、保護者の主な不安は、「悪質なユーザーとの出会い」「ネット依存」「不適切な情報コンテンツへの接続」「プライバシーの侵害」「長時間利用に伴う弊害」等がある

課題

- 登録がなければ部屋の出入りをする事ができないため、登録前の興味がある段階では、実際にどのようなことが部屋の中で行われているか把握することができない
- チャットのログが残らないため、事後的な対応に制約がある
- キック(強制退室)をしても、一度アプリ(ブラウザ)を落とせば再入室可能となる
- 登録手続きによる個人情報の登録が心理的なハードルになっている
- 連絡がとれない登録者が多い(主に義務教育年齢以外)
- 未登録のままオープンデーを複数回利用していると思われるアバターがいる

今後の方向性(案)

「自由」「気軽」と「安全性」の両立を図るにあたり、**事前登録及び本人確認について見直しを図る**

- ① 申込にあたっての入力情報を減らす
氏名、性別、**ニックネーム**、生年月日、**年齢**、**携帯電話**、**メールアドレス**、**在住市町村**、**所属(学校等)**、**(新)登録のきっかけ(デモ、紹介、チラシ・SNS)**
⇒連絡手段及び必要最低限の統計分析(年齢、登録のきっかけ)を目的
- ② (義務教育年齢も含めて)SMS等で「登録ありがとうございます」「**確認しました**」と御返信ください」「心当たりがなければ御連絡を」と通知
- ③ 申請フォームに「事前説明希望」を設け、希望に応じて個別連絡を行う

【懸念】

- ・SMSで返信がないことが想定される
⇒返信がなかったとしても、現地において登録のきっかけ等他の要素で確認を行うことで可とする

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

安全性②

現在の運営状況

○開室時間中はスタッフが常駐し、部屋に入るためにはスタッフの許可が必要
○利用者間のチャットを禁止
○不適切行動があった場合は管理者権限により強制退室
⇒空間内の安全性の確保
○事前登録制とし、義務教育年代は保護者に電話連絡、それ以外はメール連絡
⇒なりすましの防止
○長時間利用にならないよう適宜声掛け
⇒長時間利用への対応
○月に数回、未登録者でも利用が出来るオープンデーを開催
⇒未登録者利用の検証も含め、興味がある層への体験利用の機会を設ける

【参考】

「さいたまけん★こどものこえ」の保護者向けアンケートの結果によると、保護者の主な不安は、「悪質なユーザーとの出会い」「ネット依存」「不適切な情報コンテンツへの接続」「プライバシーの侵害」「長時間利用に伴う弊害」等がある

課題

●登録がなければ部屋の出入りをする事ができないため、興味がある段階では、実際にどのようなことが行われているか把握することができない
●チャットのログが残らないため、事後的な対応に制約がある
●キック(強制退室)をしても、一度アプリ(ブラウザ)を落とせば再入室可能となる
●登録手続きによる個人情報の登録が心理的なハードルになっている
●連絡がとれない登録者が多い(主に義務教育年齢以外)
●未登録のままオープンデーを複数回利用していると思われるアバターがいる

今後の方向性(案)

「自由」「気軽」と「安全性」の両立の検証を進めるとともに、利用者への認知度向上を図るため、**オープンデーを週1～2日開催とする**

- ① オープンデー時に未登録者の利用によるトラブルは生じていない
- ② 専門支援機関等とのつながりのない層の利用促進を図る
- ③ 登録制度の必要性も含めて検証を行う

【懸念】

・埼玉県外や年齢不詳の方の利用も予想される。
⇒まずは利用拡大の検証を優先し、実際の影響について検証を進める

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

プログラム内容

現在の運営状況

○開室日は閉鎖空間でプログラムを実施
○プログラムは1回1時間程度(平日は2回)、主にチャット機能を活用
○プログラムの前後30分はスタッフが部屋の入口におり、通常の会話が可能
⇒プログラムを軸に利用の動機付け
○必要に応じて外部講師や外部ツール(Zoom等)を活用
⇒プログラムの幅を広げる
○開室時間中は入退室自由、聞くのみ可
⇒配信型、交流型プログラムのほか、継続性のあるサークル活動型プログラムを実施

【参考】

興味のあるプログラムについて、①「デモ参加者等アンケート」結果によると「共通のテーマで話し合い」「オンラインで勉強したり、いろいろなことを学びたい」、②「さいたまけん★こどものこえ」こども向けアンケートの結果によると、「友達とゲームをしたり、好きなアニメについて語り合いたい」「オンラインで勉強したり、いろいろなことを学びたい」、③保護者向けアンケートの結果によると、「オンラインイベントやワークショップへの参加」「趣味や好きなことについて語り合う」が多い

課題

●オンラインの長時間利用に懸念がある
●チャット機能が中心となるため、プログラム内容に制約がある
●オープンチャットのため個人間でのやりとりはできない
●リアルタイムコミュニケーションとなるため、「その場」にいる必要がある。また、ログが残らないため過去の会話を確認することができない。
⇒途中入室のハードルが高い
●部屋は閉鎖空間となるため、部屋の自由な出入りは出来ない

今後の方向性(案)

リアルタイムコミュニケーション(バーチャル埼玉)以外の活動の場として、コミュニケーションツールTeamsのチャンネルを試験的に運用する(利用者限定)

- ① Teamsのアカウント等は運営側が用意し、利用者に提供する
- ② Teamsではチャンネル(グループチャット)利用を原則とし、個人間チャットは行えない設定とする
- ③ Teamsにより、文字が記録として残るとともに、自分の任意の時間で文字の入力を行うことができる
- ④ 不適切な行為があった場合、アカウントの凍結が可能
- ⑤ Teamsを活用した意見交換の場を作り、意見発信プログラムを試行する

【懸念】

・任意の時間に書き込めるため、安全性が担保できるとは言い切れない
⇒高校生以上を対象として、試験運用を進める

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

利用者との関係性

現在の運営状況

- 利用者は、①さいたまユースの居場所利用者、②リアルな居場所等利用者で、デモ等でつながった者、③直接的な関係がなくつながった者(SNS等で興味を持った)がいる
- ①②についてはスタッフと互いに面識があるが、③については電話・メール等でのやりとりはあるが、面識はない
- ①②について単発的な利用があるが、利用は継続しない傾向がある(0ではない)
- ③の層にはSNS等でアプローチしているが、利用者数は全体の2割に過ぎず、YouTube広告による効果は実感できていない
- 相談実績はない

【参考】

「デモ参加者等アンケート」の結果によると、交流・体験プログラムの参加は対面型を希望する者が76%、相談については、バーチャル空間であれば相談がしやすいと思う者は55%
「さいたまけん★こどものこえ」の保護者向けアンケートの結果によると、オンラインの利用や匿名性に対する不安があった

課題

- 匿名性を肯定的に捉える層がある一方、懸念する層もある(特に保護者)
- オープンチャットのため、個別のコミュニケーションがとりづらい
- リアルへのつなぎ(相談・支援)は信頼関係が重要であるが、コミュニケーション(特に非言語コミュニケーション)がとりにくいため、交流の中で信頼関係を醸成することは困難
- 反復的な利用にあたっては、スタッフとの信頼関係は重要な要素の一つ
- SNSによる広報だけでは、③の具体的なアクション(登録・利用)まで繋がっていない

今後の方向性(案)

利用者との関係性を広げるため、リアルとオンラインを併用していく

- ① 匿名性を肯定的に捉える層がある一方で、互いに面識があることを望む層もある
- ② ③のオンラインのアプローチ(SNS等)及び②のリアルのアプローチ(デモ等)を継続
- ③ リアルのイベント等と連携が出来る場合は積極的に連携する
⇒②から潜在的なニーズにつながる可能性があるほか、②の利用によりバーチャルユースセンターの活性化につながる
⇒利用者が増えることで、継続的な利用や相談しやすい環境へとつながる

【課題】

・効果的なYouTube広告の利用について更なる分析が必要

埼玉県バーチャルユースセンター・今後の方向性(案)について

総 括

前回報告の方向性	取組内容	課題	今後の方向性
時間帯等の利便性向上	週3日開室、内2日を固定 (火曜午前、木曜午後、土日いずれか) 土日夜間のプログラムを実施	不定の開室時間は事前に時間を確認することが必要 分析にあたり、母数(利用者数)を増やす必要がある	週3日の開室時間を固定化し、 まずは利用者の利便性向上を図り、利用者人数を増やす
安全性の更なる担保と誰でも気軽な利用	本人確認の簡素化(義務教育年齢のみ電話確認) 登録不要のオープンデーを不定期開催	事前登録及び本人確認のハードルがある 継続的な未登録オープンデー参加者が複数あり	事前登録及び本人確認により簡素化を図る オープンデーを週1～2日開催
多様なプログラムの設定	配信型、交流型プログラムのほか、継続性のあるサークル活動型プログラムを実施	リアルタイムコミュニケーションとなるため、「その場」にいる必要がある	コミュニケーションツール Teamsのチャネルを試験的に運用する(利用者限定)
ニーズある層へのアプローチ強化	Youtube広告の実施 SNS周知、インスタ開設	匿名性を肯定的に捉える層がある一方、懸念する層もある(特に保護者) 現時点では広報効果が実感できるものはない	リアルのアプローチ(デモ等)とオンラインのアプローチ(SNS等)を併用していく

埼玉県バーチャルユースセンター運営検討会議 ・ 結果概要(令和7年6月時点)

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	質問	交流部屋は、対象年齢で部屋を分ける、年齢を分けない、どちらを主として運営するのか。	年齢を分けた方が的確なプログラムを提供できる一方、異年齢が集まることの良さもある。 試行の中で検討する。	-	-
②	質問	Discordを活用するにあたって留意する点として何を考えているのか。 不適切な発言がなされる可能性がある。	(受託事業者) 運用ルールをこども達に働きかける。 ワード登録を行い、不適切な発言があった場合、運営側にアラート通知が届く設定をする。そして、発言をしたこどもに対してケアやサポートをしていく。 なお、Discordはツールの一つの場合であり、実際に活用するかどうかは今後、検討を行う。	-	-
②	質問	Discordを活用する場合、スタッフがいない時間においてもこども達だけのやりとりが発生するものか。	(受託事業者) こども同士のやりとりが発生することも想定している。 最初は事前登録したこども達だけの運用となるため、運営側がある程度各個人の把握はできる。 テキストチャットの履歴は残るため、運営が定期的に確認する運用が考えられる。	-	-
②	質問	Discordでの相談時間を設けるのか。	(受託事業者) 運営と直接会話が出来る時間帯はあらかじめ示す必要があるが、今後、検討を行う。	-	-
②	意見	バーチャルユースセンターとDiscordの棲み分けを整理することが課題。 ヨーロッパではDiscordがオンラインユースワークやデジタルユースワークの主戦場となっている。Discordだけで完結できる部分があるが、一方で、アバターを介したバーチャルユースセンターならではの良さもあると考える。それぞれの利点を踏まえ、どう活用していくのか、どうあるべきかを意識して議論していけると良い。	(受託事業者) バーチャルユースセンターの補完的な役割としてDiscordを活用することを考えている。 今後、検討を行う。	利用者機能の管理が行えるTeamsを活用した枠組みを検討中。	済
②	質問	夜の時間帯に対するニーズがあると思われるが、その対応はどのように考えているのか。	(受託事業者) 夜の時間にニーズがあるだろうということは理解しているが、昼間の時間帯で生活リズムを整えられた方がよいという考えもある。また、あまりに遅い時間では生活リズムが崩れる可能性もある。 試行の中で検討する。	-	-
②	質問	協力小中学校に対する広報はどのように考えているのか。	協力小中学校に対して、一斉にチラシ等を配布することを想定している。	-	-
②	質問	1月になると、すべての小学校から大学に一般公開するのか。	試行の中で検討する。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	意見	連絡先の登録について、通常の小中学生はメールアドレス等はあまり持っていないと思われる。 また、未成年は保護者の連絡先を登録することとなると、居場所感を下げる要因となり、必要なニーズ(こども)に届かないリスクになる。	-	義務教育年齢の者については、保護者の同意を求めることとし、連絡先は保護者のものとする。 ただし、支援機関等利用者は支援機関等による代理登録を認めることとする。	済
②	意見	保護者の連絡先を求めることは義務教育かそうではないかで分けてもよいのではないか。中学生までは保護者の連絡先を求め、高校生からは任意とする運用も考えられる。 また、保護者の同意が得にくい場合においては、例えば学校の先生や、施設の施設長、ケースワーカーといった親以外の選択肢を認める等、柔軟な対応が必要と思われる。	-	義務教育年齢の者については、保護者の同意を求めることとし、連絡先は保護者のものとする。 ただし、支援機関等利用者は支援機関等による代理登録を認めることとする。	済
②	意見	本人や家族と連絡をとるために、登録時にメールアドレスや電話番号を求めることが必要であることは理解できる。	-	登録時にメールアドレス及び電話番号を求めることとする。	済
②	意見	メインターゲットをどこに設けるか議論が必要。 ユニバーサルかターゲットか。試行当初はターゲットを絞って始めることは了解しているところであるが、将来的にどの層をメインターゲットに据えるかによって運営のルールも変わってくる。 ただ、真に居場所が必要であるこども達に利用したいと思ってもらえるよう、形式上はユニバーサルとして敷居を下げ、実際のメインターゲットは別に据えるという考え方もある。 試行期間中はターゲットを絞り、支援を要するこどもだけに絞ることも考えられる。	-	委員意見を踏まえ、試行の中でニーズを検証し、利用者層の拡大にあたっては慎重に検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあるこども・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)こども・若者へのアプローチを強化する。	済
②	意見	試行期間の間は、ずっと支援を必要としているこども達だけを対象とするということも考えられる。	-	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあるこども・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)こども・若者へのアプローチを強化する。	済
②	意見	ユニバーサルの部屋とターゲットを絞った部屋、両方を用意し、行き来できるようにすることも考えられる。	-	講義的なプログラムの回のほか、こども・若者が主体となって活動するような回、特定の目的を持たない余暇の回など、様々なプログラムを設け、こども・若者のニーズに幅広く対応する。	済
②	質問	プライベートテキストチャットで別のサイトのURLや連絡先の交換等が行われる可能性があるが、対応する方法はあるか。	制限する機能はないため、運用ルールの中を定め、対応・指導していく必要がある。	11月14日にプライベートテキストチャットを制限する機能が実装された。バーチャルユースセンターにおいては当面の間、プライベートテキストチャット機能は原則禁止の設定とする。	済
②	意見	不適切な発言等をしてキック(強制退室)されたこどもに対してケアの方法を考えておくことが必要。	登録時に連絡先を確認し、ケアに努める。	ケアを行う旨、マニュアルに追記。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
②	意見	利用者間のプライベートテキストチャットは早い段階で認められていくものという印象。	試行の中で検討する。	空間内の安全性が求められる一方、プライベートチャットのログを確認すること等できないため、現仕様の中においては制限を継続する。	済
②	意見	入室にあたって、なりすましを防ぐために合言葉等によりきちんと本人確認をしてから入室させるということも考えられるが、一方で、利用のしやすさを優先させるという考え方もある。どの方法が適切かについては試行の中で検討していただきたい。	試行の中で検討する。	合言葉での入室確認は事務的に支障が生じるため、ニックネームによる確認とする。	済
②	意見	今後、バーチャルユースセンターの活動が教育課程上の学校外の活動としてカウントされることも考えられる。	-	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続
③	質問	お試しで参加した者も登録をしているのか。	お試し参加の者は登録していない。	-	-
③	質問	学習プログラムはどこで行う予定か。	(受託事業者) オープンテラスの使用を考えている。例えば鍵付き相談ブースのスクリーンを使用することも検討している。そこで学生ボランティア等がテキストチャット中心で教えるイメージで考えている。	-	-
③	意見	同じ場を共有していることの強みを活かすためには、テキストチャットよりもボイスチャットの方が大事ではないか。	試行の中で検討する。	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) ボイスチャットを希望しない利用者も一定数いるため、プログラム内容に併せて使い分けをすることとする。	済
③	質問	身分証明の確認を緩和するということだが、具体的にどのような方法か。	支援機関に在籍確認を行うことで本人の身元確認ができたと整理したい。	-	-
③	意見	どこにも在籍していない、中学校にも高校にも在籍していないような人に対する登録方法を検討していただきたい。	-	試行期間当初においては、登録時にオリエンテーションを実施し、本人確認を行う。	済
③	意見	入室にあたっては、システムで本人確認できた方が心理的安全性が高い。	バーチャル埼玉の機能としては実装されていないが、担当課所に要望として伝えている。	担当課所に対し要望を伝えていく。	済
③	質問	利用拡大の状況は。	教育支援センターは調整中。 そのほか、市町村に対して協力の通知を発出しており、協力の相談があれば適宜対応していく。	-	-
③	質問	実際に運営している委託事業者の意見として伺いたいですが、この事業は、何に向いていそうか。 バーチャル埼玉をどう使うかということから始まっており、何かニーズがあって始まっているものではないという難しさを感じている。 その中で、匿名のライン相談やリアルな居場所づくり等も進んでいる中、どんな強みがあると感じているのか。	(受託事業者) 行政が運営しているという信頼性があり、子どもや若者の安全なバーチャルな居場所が提供できるという点に可能性があると感じている。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
③	意見	こどもや若者の安全なバーチャルな居場所が提供できるという点に強みがあるのであれば、そういったニーズに尖らせた拡充の仕方等を進めていくべきではないか。	-	委員の意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) リアルに居場所のあるこども・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)こども・若者へのアプローチを強化する。	済
③	質問	登録している人はどのような人か。	(委託事業者) 現在の傾向としては面白そうな場所として興味を持った人が登録している割合が大きい。 ただ、中には学校に行かないという選択をしている人や、その時のコンディションでリアルな現場に来れないような人もいる。 (県) 支援が行き届かない層への掘り起こしも検討していきたい。	-	-
③	意見	オンラインの交流からオフ会に繋げていくことのハードルは高い。 間にいるキーパーソンがとても重要になると思う。	試行の中で検討する。	利用者とスタッフ間での信頼関係醸成を、リアルも含めて考える。	継続
③	意見	登録にあたっての性別確認については、男女及び男女に該当しないという3択でよいのではないかな。 もしくは任意入力でもよいのではないかな。	-	男女及び回答しないという3択で項目を設定する。	済
③	意見	性別の配慮については、当事者本人たちから意見を聞いた方がよいのではないかな。	試行の中で検討する。	男女及び回答しないという3択で項目を設定する。	済
③	質問	アンケートは記名式か、無記名式か。 記名式の場合、書きやすさは下がる等の良し悪しはある。	利用者向けは無記名式、支援機関向けは記名式を検討している。	-	-
③	意見	何のプログラムに参加したか把握した方がよいのではないかな。	-	質問項目の適宜行う見直しの中で検討を行う。 ⇒(第4回追記) 設問数厳選のため一旦見送ることとする。	済
③	意見	フェイスシートにあたる部分は質問した方がよいのではないかな。	-	フェイスシートにあたる部分の質問項目を追加する。	済
③	意見	質問をする目的に併せて質問項目を設定すべき。	-	質問項目の適宜行う見直しの中で検討を行う。	済
③	質問	アンケートの配布方法はどのように考えているのか。	フォームに入力してもらう方法と小学校低学年向けに聞き取る方法を検討している。	-	-
③	意見	アンケートは回答する側の負担や時間的な制約がある。例えば小学生には小学生向けのより簡易なアンケートがあってもよいのではないかな。	検討を行う。	小学生向けのアンケートの作成。	済
④	質問	バーチャル埼玉とZOOMを両方使用するメリットは何か。	バーチャル埼玉の機能的に制約されている部分を必要に応じて外部ツールの活用により補完するというもの。	-	-
④	質問	テキストチャットとボイスチャット、どちらを使う利用者が多いか。	圧倒的にテキストチャットを使っている方が多い。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
④	意見	学校で配布されているタブレット等にリンクや情報が含まれるとよい。	検討を行う。	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続
④	意見	学校内の保健室等で休んでいるといった、学校には行っていないけれども違う教室でゆっくりしているこども達にも一定のニーズはあるのではないかな。	検討を行う。	SSW、特別支援教育コーディネーター等学校内の支援業務従事者に対し事業紹介の通知を発出する。	済
④	意見	アバターの種類が少ないのではないかな。また、カスタマイズできるようにできないのかな。	担当課所に要望として伝える。	担当課所に対し要望を伝えていく。	済
④	意見	バーチャル埼玉を特に目的なく回遊している者に対して、空間内にある掲示板等で情報発信したらどうか。	(委託事業者) バーチャル埼玉内に特に目的なく回遊している者はほとんどいない。 また、プログラム以外の時間帯に訪れる者もほとんどいない。	-	済
④	質問	11月活動実績の中で22日だけ0人だった理由は何かな。	(委託事業者) リアルイベントに人がとられてしまった。また、「表現哲学対話ミックス」というプログラム名もわかりにくかったと思われる。	-	-
④	意見	プログラム名が少し硬いのではないかな。	(委託事業者) プログラム名は工夫したい。	プログラム名は適宜見直しを行っていく。	済
④	意見	こども達から発信する何か、そのこども達が真ん中に立って、実施できるようなプログラムが今後展開されていくとよい。	-	こども・若者の意見発信となるプログラムを設定する。	済
④	意見	学校については、SCやSSWも良いが、特別支援教育コーディネーターや教育相談コーディネーターにこういった活動を、学校に行きづらい、教室に入りづらい人にどうかということをお願いできれば、個別に対応してくれる。	検討を行う。	各市町村教育委員会等宛に通知を発出	済
④	意見	プログラム外で自由に来て何か話している人はいるのかな。	(委託事業者) ほとんどいない。 そういったところが理想ではあるが、まだ利用者もプログラムがなければ何をしたらいいのかな少し戸惑うといった現状もある。	-	-
④	意見	公共施設とは違うため、現時点では参加者数で事業の善し悪しを評価することでなくても良いのではないかな。色々試行する中で、将来の方向性を見据えていけるとよいのではないかな。	もう少し先を見据えて取組を進めたい。	-	-
④	意見	バーチャルユースセンターが大人気コンテンツを設け、皆がここに行きたいと思うようなことを想定するよりは、むしろここにこそニーズがあるような層を探り、尖らせていく方がいいのではないかな。	試行を進め、どこにニーズがあるのか考えていきたい。	リアルに居場所のあるこども・若者は定着をしない傾向があるため、リアルに居場所がない(感じられない)こども・若者へのアプローチを強化する。	済
④	意見	オンラインユースワークを実施していくにあたり、この空間を使うことや単純な人数の増加をゴールとするのではなく、どこかのタイミングで他の方向性を考えることも必要ではないかな。	-	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	継続

回	区分	委員	事務局	対応状況	
④	意見	リアルな居場所との比較のほか、他のオンラインの居場所との比較も考えていく必要がある。バーチャルユースセンターの強みが行政が運営している安全性が強みであるならば、その点も踏まえて尖らせていくことも重要。	-	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	継続
④	質問	バーチャル埼玉で3D酔いをするが、対策はあるのか。	(委託事業者) 根本的な対処法はないため、長時間の利用とならないよう適宜休憩をはさむようにしている。	-	-
④	意見	他自治体の不登校児向けメタバース事業においては、スタッフ1名は常駐していることを安心安全のポイントとしている。	(委託事業者) バーチャルユースセンターにおいても開室時間は常にスタッフがいます。	-	済
④	意見	周知について、今後の本格運用に向けて広く周知していくという考えがある一方、一般利用者の方が来ることによって、教室に行きづらいようなこともが利用しにくくなる恐れがあるのではないか。	段階を追って周知を広げていくイメージである。ターゲットを絞る方向性も良いのではないかという御意見もあったため、広げられるところから広げていきたい。	-	済
④	意見	放課後児童クラブ等において、夏の時期、熱中症警戒アラートが発令されると外遊びができなくなり、持て余すこともあったという話も聞いた。そういったタイミングで合同イベントのようなものが企画できるとよいのではないか。	検討を行う。	夏の時期において、利用を促す通知やイベント等の検討を行う。	継続
④	意見	登録にあたって電話による本人確認を実施することについてはメリット・デメリットがある。義務教育年齢の子どもについては、電話連絡によって保護者が安心する側面もある。今後、登録者数が多くあった時に向けてSNS通知のような工夫も考えられる。	検討を行う。	義務教育年齢の登録者については電話による本人確認を行い、それ以外の者についての確認はメールでのやりとり等で行うこととする。	済
⑤	質問	「観るラジオ」はボイスかテキストチャットのどちらで行っているのか。	(委託事業者) ゲストとパーソナリティはZOOMを活用して顔出しで対談を行い、聞きに来た子ども・若者はチャットで質問をするという形式。	-	-
⑤	意見	「バーチャル空間であれば誰でも気軽に入るのではないか」ということに対し、「誰でも気軽に参加できる環境整備を進める必要がある」ということは、イエスでもノーでもなく、とても行政らしい書き方になっている。どの程度フォーマルな報告書なのかにもよるが、出来た・出来なかった、うまくいった・いかなかった等を書いた方がよい	ここの表現としてはもう少し工夫した方がよかったかなとも思ったため、今後、検討させていただきたい。	-	-
⑤	質問	現状の登録者の中で、さいたまユースサポートネットの利用者の方が規模として一番多いと思うが、さいたまユースサポートネットの利用者は、お互いに面識があるのか、また、スタッフともリアルな交流があるということでしょうか。	(委託事業者) スタッフは面識がある。子ども・若者同士は、利用している事業ごとに分かれているため、全員が顔見知りではない。	-	-

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑤	意見	この空間が万能なものではないことは皆わかっており、そこを 取り繕って書かない方がむしろ次に繋がる。もう少しフランクな 会議として検討をしていった方が、実が出るのではないかと。そ そもニーズがあるかどうかも含めて検討する段階だと理解し ており、その辺りは(ネガティブなことも含めて)おおらかに書い た方がよい。	-	-	-
⑤	質問	バーチャルユースセンターを利用する時間帯について、例え ば21時から24時といった選択肢があったのか、そもそも質問 自体設けていなかったのか。	21時以降のものについては選択肢に入れていなかった。	-	-
⑤	意見	家庭訪問型支援をされている団体との仕掛けづくりも必要で はないか。例えば、アスポートという学習支援を行っている団 体が、要対協と連携してアウトリーチを実際行っており、そう いった団体とのコラボみたいなところは重要になると考える。	(委託事業者) アスポートには、我々が作っているチラシを、青少年課を通じて お届けした。 団体同士として、アスポートの代表の方とも普段からやりとりな どもしている。今後、どのような連携ができるか検討したい。	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	
⑤	意見	その居場所での自分の役割を見つける時は、大体こちらから 少し手伝って欲しいといった、小さな役作りみたいなところから 始めている。そういうちょっとした役割から主体的になっていく という過程を、居場所の中でなんとなく見かけている。	(委託事業者) 小学生の男の子が、自分の好きなものを皆に知って欲しい、み んなの前で話したいということで、自らテーマを企画し、プログラ ムを運営した。そうした役割を持ってもらう中で、広がりを持たせ ていきたい。	-	-
⑤	質問	企画はどのようにサポートをしたのか。	(委託事業者) 事前に本人と打ち合わせをした。小学生は保護者の方ともお話 することになると思うが、丁寧な打合せを行っていききたいと考 えている。	-	-
⑤	意見	何人か、例えば高校生が小学生の中に入って、何かやろうよ みたいな、この間、言ってくれたことを実現しようよ、みたいな 感じでやっていけたら、面白いのではないと思う。それを、自 分達がやって作り上げたと思えるような形で何か出来たら面 白いのではないかと思いつつ、バーチャルでそれをやることに ついては難しいかとも思う。	-	-	-
⑤	質問	広報ツールとして考えているものは、テレビやSNS等ではなく YouTubeなのか。	どこにどんな広報をしていくことがベストなのかといったところは 探りながらいったところが現状。ただ、やはりYouTubeという中 で広く広報していくという方法も試してみて、どんな成果が出る のか出ないのか、といったところを確認していきたいと思っている。	-	-
⑤	意見	YouTubeの利用率はもちろん高いが、10代にしか見られない キッズモードがあるため、その辺の工夫は必要。	-	広告の設定に際し、対象年齢等の設定が可能。	
					済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑤	意見	SNSで、やはり最も使われているLINEや、10代の利用率が高いTikTokのようなツールを増やしていった方がよい。1分のショート動画を作ればどの媒体でも使いまわしができるため、汎用性高い動画を作るであつたり、また、同じような投稿を増やすといったことは必要。	短い時間の動画を作成しているところ。どのように拡散していくかは今後検討していく。	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	継続
⑤	意見	学校側のタブレットの中に入れることはかなり有効だと思っているため、協力していただける学校があれば是非進めてみたらどうか。	検討を行う。	試行運用の中で一定の方向性が固まった本格実施となり、安定的な運営が継続された後、協力市町村、教育支援センターと協議する。	継続
⑤	意見	こどもたちも保護者も、YouTubeで検索し、不登校支援を埼玉県がやっていたりすると思うので、引っかかってくるものがあれば、そこからは入れるかと思う。	-	-	-
⑤	意見	展覧会のような、ギャラリーのようなことが機能として組み込むことはどうか。バーチャルのハードルの高さを考えた時には、1回入ってみることに誘導できる仕掛けがあつた方がいいと思う。何か皆が来ることによって色々なものが見れたり、出会えたりするような、何かそういう彼らからの発信が見れる場所のような使い方もあるかと思う。	検討を行う。	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	継続
⑤	意見	文化祭や運動会といった学校行事になかなか参加できなかったこどもに対し、バーチャル運動会やバーチャル文化祭のような形で参加できると面白いと思った。	検討を行う。	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	継続
⑤	意見	色々な方がゲストに来てというようなお話があつたと思うが、今、自分たちが運営している居場所に来ている若者の中に、元々学校に居場所がなくてオンラインゲームが自分の居場所になっていたが、そこからリアルに出たという若者がいる。そういった先輩の話みたいなので、皆さんと繋がれると良いと思った。	検討を行う。	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	継続
⑤	意見	不登校からリアルに繋がった話を聞くときに、それぞれの先輩の言葉みたいなのがバーチャルに置いてあつて、自分で読めるようなものもあつてもよいのではないかな。そういったものを、中学時代に読みたいと思っていたというような話がよく記事にある。そういった人達の声が並んであるみたいなのを、テーマに合わせて置いておくような工夫があるといいなと思った。そういった取組とSNSをうまく連動させて広報できるとよい。	検討を行う。	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	継続
⑤	質問	例えば「電車に乗りたい」や「自転車に自分たちでこう動かしたい」ということは機能的に難しいのか。	難しい。	-	-
⑤	意見	何かうまくできる、うまくできたという成功体験のほか、居るだけでいいんだということにフォーカスを当てられたプログラムがあると面白いと思う。ノーやパスができるとか、ちらっと覗くだけでもいいとか、そういったグランドルールのもとで、居て楽しいなと思ってもらえるようにすることがいいと思う。	-	運営マニュアルにおいて共通ルールを作成し、プログラム開始時に説明を行っている。	済

回	区分	委員	事務局	対応状況	
⑤	意見	まだ試行期間ということもあるため、何か特定のプログラムや人気のプログラムを中心に、そこから小さいところから広げていくという方法もあるのかと思う。まず初めは小さいところから徐々に広げてくことも1つかと思う。	-	-	-
⑤	意見	また、ベースの部分が周知も含めてまだ十分ではないのかなと感じているため、今はプログラムを充実させるというよりも、そういった広報や周知に力を入れることも1つかと思う。	-	積極的な広報に力をいれていく。	済
⑤	意見	あとは、そういったブログ等で、核となる利用者を養成し、その核となる人たちからプログラムの提案とかしてもらって広げていくということもいいのかと思う。	-	インスタを開設したので、既存のSNSを活用した取組を進めていく。	済
⑤	質問	TikTokは駄目なのか	埼玉県では運営してない。	-	-
⑤	意見	地方や中心部から離れた地域では保護者の相談先といった資源が限られているところもあるため、そういった社会資源の少ないところの保護者の相談先の1つに、このセンターがなれるといいのかなと思う。そうすることで、保護者や、或いはこどもの支援者の方でもどこかに相談する先が欲しいという方もいると思うため、そういったところから利用していただき、その次として、今度は支援しているこどもにこのセンターの利用を保護者や支援者から周知してもらい、つなげていくということも1つの方法かと思う。	教育支援センター等に声掛けをさせていただき、利用登録が少しずつ増えてきているところ。色々な広報手段を使って広げていきたいと考えている。	委員意見を踏まえ、試行の中で検討を行う。	継続
⑤	質問	保護者相談の先としてここの登録を周知することについてはどうか。	検討を行う。	-	-
⑤	質問	保護者の相談に乗るということの打ち出しはどうか。保護者相談があった際に、その時にこういうものもあるからどうかというような話であればできると思うが、保護者相談の窓口として広報できるか。	検討を行う。	-	-
⑤	質問	保護者が登録し、保護者のグループをバーチャルでやるということもあり得るのか。	保護者への訴えかけが、相談といった形がよいのかどうかはまだ見えていないが、今後、検討したい。	-	-